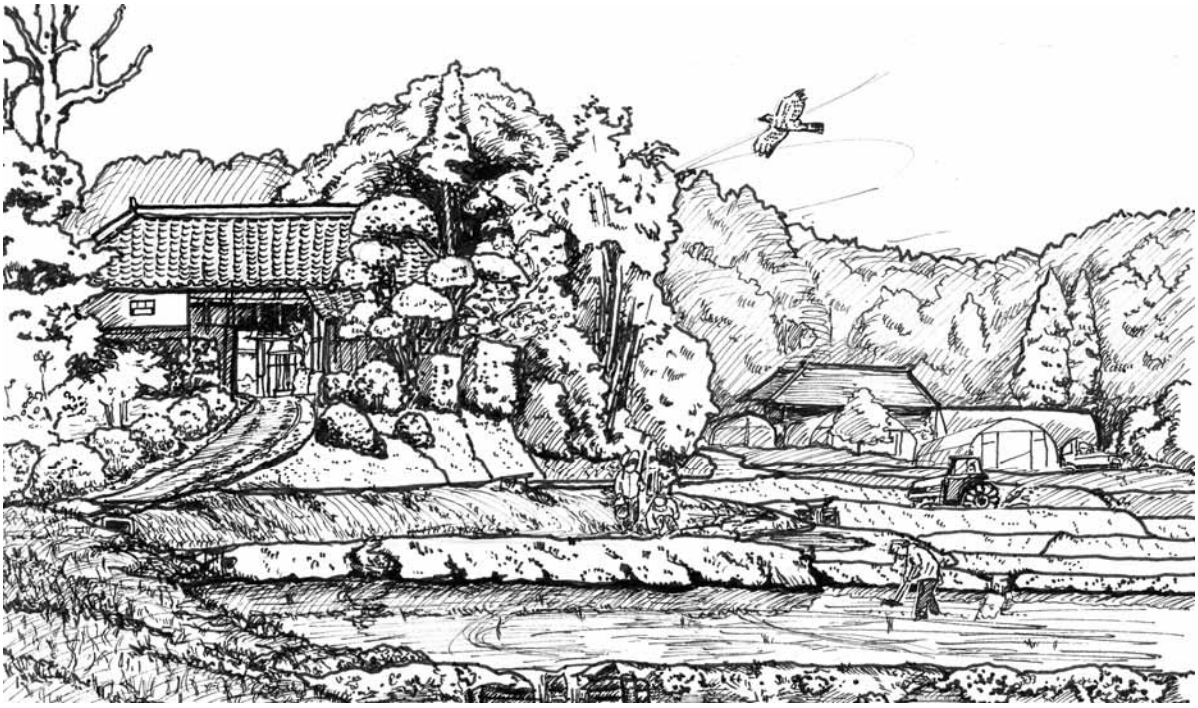
ちば・谷津田フォーラム会誌 NO.12 2005. 4. 15 発行

ちば・谷津田フォーラム
里やまの自然誌



目次

新潟県中越地震被害者支援　高岡良樹と千葉の里山グループ
チャリティーコンサート・シンポジウム報告 …… 1

『谷津田フォーラム in 丸山町』まち歩きのまとめ
ＮＰＯ法人 ちば環境情報センター　小西　朝希子 …… 15

千葉にコウノトリが飛来！
ちば・谷津田フォーラム代表（千葉県立中央博物館生態・環境研究部長）中村　俊彦 …… 22

千葉市緑区下大和田で確認された開花植物
ちば・谷津田フォーラム　網代　春男 …… 23

谷津田調査票 …… 27

200４年度活動実績 …… 28

谷津田ファイル …… 29

事務局より …… 31

題字：倉島貴浩（ワークホーム里山の仲間たち）　　イラスト：松下優子

新潟県中越地震被害者支援　高岡良樹と千葉の里山グループ チャリティコンサート・シンポジウム報告

2004 年 12 月 11 日、「新潟県中越地震被災者支援チャリティーコンサート・シンポジウム」（主催：ちば・谷津田フォーラム，里山シンポジウム実行委員会）が、千葉県教育会館大ホールにて開催されました。

当日は約 400 名もの方々においでいただき、高岡良樹さんの「朱鷺絶唱」をはじめ高岡さん佳世乃さん親子のコンサート、そして千葉の里やまと朱鷺を語るシンポジウムを通し、新潟県の地震被災者の方々の一日も早い復興を願いながら、トキの舞う里やま再生の夢に多くの方々が思いをともにすることができました。

おかげさまで、このコンサート・シンポジウムでいただいた入場料とご寄付は、経費を除いて 793,258 円となりました。この全ては、12 月 24 日 NHK 千葉放送局を通じ、新潟県中越地震の災害復旧義援金とさせていただきました。皆さまのご支援ご協力に心より感謝致しつつここにご報告させていただきます。誠にありがとうございました。

シンポジウムの内容と会計状況について、以下にご報告いたしますのでご覧下さい。なお、シンポジウムの様子や会計報告は、ちば・谷津田フォーラムホームページ http://yatsuda.2.pro.tok2.com/のイベント報告でご覧になれます。　　（ちば・谷津田フォーラム　代表　中村　俊彦）

Ⅰ．シンポジウムの記録

＜開会挨拶＞

中村　俊彦

本日は暮れのお忙しいなか、このように大勢の方々にお越し下さいまして誠にありがとうございます。

私たちは、谷津田・里やまを通してふるさと千葉の自然と文化を学び、その保護・保全について活動するグループです。私どもの、これまでの調査研究によって、人々の暮らしを支えてきた谷津田・里やまは、野生動植物にとっても、豊かな生息・生育環境であることがわかってきました。その中にあのトキの野生の姿もあったのです。

千葉とトキとの関係については、後ほど改めてお話しさせていただきますが、さらに、千葉にトキの歌を歌われる方が、いらっしゃることも知りました。

本日ご出演頂く、高岡良樹さんです。高岡さんは、歌物語「朱鷺絶唱」をはじめ、ふるさとの自然や文化について素晴らしい、たくさんの歌をつくられ、全国で演奏されてこられました。

「朱鷺絶唱」をはじめ高岡さんの作品を多くの方々に知っていただきたい。そして、この高岡さんの作品を鑑賞しながら千葉の谷津田・里やまについて語り合う会を持とうと、来年１月か２月にでも今回のようなコンサート・シンポジウムを開こうと準備をしていました。その折りでのあの新潟県の大きな地震です。

日々、地震の被害の様子が伝えられましたが、新潟の里やまとそれを支えてきた方々の被害が大きかった状況に心が痛む思いをしたのは、私たちだけではないと思います。

私たち千葉の里やまグループも、何か御支援できないかと考え、本日のチャリティーコンサート・シンポジウムを企画したしだいです。

本日の開催に際しては、多くの方々の御支援・御協力を頂きました。この場をお借りして皆様に厚く御礼申し上げます。ただ、今回は、なにぶん準備不足は否めません、いろいろ不十分な点が多々あるかと存じますが、それについては、ひとつこの私たちの「思い」に免じ、なにとぞお許し頂きたくお願い申し上げ、私の挨拶とさせて頂きます。最後までよろしくお願いいたします。

＜千葉の里山と朱鷺を語る＞

「なぜ千葉で朱鷺？」

中村　俊彦(千葉県立中央博物館生態・環境研究部長)

今から 10 年位前にテレビで中国のトキの生態を特集した番組がありました。その映像には、トキが中国の山間部で生活している様子が映し出されていたのですが、その光景が私の子どもの頃に遊んだ千葉の里やまの光景にあまりにも似ていたのです。まさに里やまにトキがいるということでびっくりしました。その後、最近になっていろいろと里やまとトキの関わり、また千葉とトキのかかわりというものがわかってきまして、今日のシンポジウムのまえに、私から千葉の里やまとトキについての話をさせて頂きたいと思います。

トキ、漢字では朱色のサギ（朱鷺）と書きます。また一文字で書くと「ヒ」に「十」に「鳥」（鴇）と書きます。実は私もトキの字の中にどうして「ヒ」と「十」があるのか、まだ勉強不足でわかりません。*Nipponia Nippon* これはトキの学名です。日本、まさに日本の日本。日本を代表する生物であるといわれているわけです。私は最近、日本の国旗の「日の丸」が、トキの顔を日の丸としたという説があるのを知りまして、それも今後もっと調査していきたいと思います。

この図は浅井粂男さんという方にお願いして描いていただいた千葉の代表的な里やまの絵です。ちょうどいまの秋から初冬にかかる千葉の里やまの様子が描かれています。今日の午前中、私は多古町に行って、まさにこのような情景に遭遇してきました。紅葉しているもの、あるいはスギ・ヒノキやシイ・カシのように常緑のものが混じりあっていました。千葉の自然というのは世界の中でも北の生き物、南の生き物がちょうど出会う場所で、このように木々や、竹笹、また樹木も落葉樹や照葉樹，針葉樹と、このようにいろいろな生き物がたくさん生育しています。これは我々千葉の人達にとってはあたりまえのことなのですけども、世界的に見るとまさにこの辺だけが非常に珍しいところ。外国に行くと植物園でしか見られないような状態なのです。まさにそのような豊かな千葉に、かつてトキがいたのです。日本だけではなく、世界的に見るとトキはアジア、なかでも日本あるいは中国や朝鮮にたくさんいました。今は中国の陝西省の洋県というところにトキがいます。ここは千葉と緯度が近いです。かつての日本のトキの分布についてはいろいろな記録があるのですが、最近の記録を見ると、20 世紀後半に日本にトキがいたことが示されています。新潟, 能登半島だけでなく、千葉にもトキがいたことが示されています。昭和 28 年、市原市五井の金杉というところで白井清吉さんという方の目撃記録が残っていますが、これが太平洋岸では最後のトキの記録なのです。

これはトキの絵をかかれている画家の時田直善さんという方の絵です。昨日、私はこの絵を市原市の文化財センターで拝見してきました。これは昭和 23 年に時田さんが実際に自分で目撃されたトキの様子とのことです。ちなみに来年の 1 月 23 日に千葉県が主催して里山フォーラムが市原市で開催されます。このときにはいろいろなイベントがおこなわれ、加藤登紀（トキ）子さんが出演される予定です。是非、楽しみにしたいと思います。

これも時田さんが書かれた絵です。時田さんはそのときのトキの様子について記録された文章も残していらっしゃいます。今日は息子さんの時田豊さんもこの会場に来ていただいて一緒に楽しんでいただいています。

これは「ようこそトキだよ」。これは東金市の商店街にトキの看板がたくさん出ているのを、私のある友人が写真にして送ってくれました。東金というのは実は鴇ヶ嶺（トキガミネ）から由来する地名といわれていて、この地域にもトキがいたのではないかと思います。ほかには、長柄町に鴇の谷と書いて「トウヤ」、あるいは鴇崎（トキザキ）という地名が千葉県にあります。それから先ほどの時田さんですけれど文字を見ればおわかりのとおり時間の時だったのですけれども、遠いご親戚の中には飛ぶ鳥の「鴇」という字を書く方もいらっしゃるそうです。この会場にもトキタさんというかたがいらっしゃるかもしれませんが、千葉には鴇田さんというかたがたくさんいらっしゃって、私もびっくりしました。昔から千葉がトキに縁があったということが分かると思います。

今年の 2 月にちば・谷津田フォーラムで「トキが舞う千葉の谷津田に！」というシンポジウムを開き

ました。ここでは中国でトキの研究をしていらっしゃって、現在千葉にお住まいの蘇雲山さんという方をお迎えして、中国のトキことなどを勉強いたしました。

トキの個体数の変化についてですが、今、日本では佐渡のトキ保護センターに 58 羽のトキがいます。中国では一度絶滅したといわれていたのですが 1981 年に 7 羽が見つかり、今では野生のものと飼育のものを合わせて 600 羽近くのトキがいるという状況です。

これは中国のトキが田んぼでエサを採っているときの写真です。また、トキは子育てを林でおこないます。ですから田んぼと林の両方がなければなりません。この棚田や谷戸田の写真は千葉の風景ではありません。これは中国のトキのいる場所です。このように千葉の里やまと良く似ているところにトキがいてどんどん増えている。蘇先生がおっしゃるには農薬をほとんど使わない、生態農業という方策でトキを守っているそうです。千葉県ではエコ農法というのをやっていますから、中国と同様に千葉でも生息地候補がどんどんできているのではないかと思います。

トキは非常に人なつっこい面があります。中国では餌付けするということではなく、人間と仲良くし、そして信頼関係があります。トキというのはそういう鳥だということを蘇先生から教えていただきました。人とトキとの共生というものを我々も目指していかなければと思います。

これは房総の里山です。十分に谷津田もあるし、雑木林もあるし、林もある。そういうところで人とトキが仲良く暮らせる、そういうロマンもいいのではないかと思います。今日、午前中は成田空港の近くにも行ってきました。中国から直行便でやってくる飛行機について、トキが日本に来るといいなと思いながらこの会場に来ました。

最近、冬の田んぼに水を張るという試みがされていますが、栄町の水を張った田んぼにハクチョウやマガンも数十年ぶりに千葉にやってきました。また、10 月にはクロトキが千葉にやってきました。このようにいろんなことを工夫すれば、いろんな野鳥が戻って来て、その中にトキもいっしょに千葉にやってくる、そんなことも夢ではないと思います。

これは時田さんの 1988 年作「晩帰」です。夕方にトキが帰ってくる様子を絵にしたものです。ぜひこのように千葉の谷津田にまたトキが戻ってくる、そういう里やま、あるいは谷津田、そして人と自然と仲良く暮らせるそんな千葉県をぜひ目指していきたいと思います。有難うございました。

＜パネルディスカッション＞

「千葉・新潟の里山と朱鷺」

パネラー
大槻　幸一郎(千葉県副知事)
高岡　良樹(吟遊詩人)
宗近　　功(元千葉市動物公園園長)

コーディネーター
小西　由希子(ちば環境情報センター代表)

小西

皆さんこんにちわ。本当にたくさんの方に集まっていただきありがとうございました。このコンサートには音楽を聴きたいという方と、里山のことを一緒に考えたいという方と、それから無理やりチケットを売りつけられたから来た（笑）という 3 種類の方がいらっしゃると思いますが、そのすべての方が満足していただけるような 1 日にしたいと思いますので、ぜひご一緒に参加していただければと思います。よろしくお願いします。

今回のチャリティコンサートは新潟の地震で被災された方々のために、みんなの気持ちを届けようということで企画されましたが、まずは副知事さんに千葉県として新潟の被災地にご支援されていると思いますが、そのことからお話いただければと思います。

大槻

副知事の大槻でございます。司会の方からお話がありましたので、新潟中越地震に対する千葉県の支援の現況をお話いたします。実は私自身も新潟県の湯之谷村という震源地から少し離れた小出町の隣の村の生まれでございまして、他人事でないという感じで報告を受けました。

発生当日の 10 月 23 日の夜のうちに、のべ 220 人の方々、車両も 54 台が県警本部から現地のほうへ出動しております。とりわけ話題を呼んでおりましたのが女性の警察官の皆さんです。被災者の皆さんの精神的な支えとなったという意味で女性警察官のみなさんにずいぶんご活躍いただきました。また合わせて消防の関係では、ヘリ 2 機，車両 29 台、さらに 122 名の方が翌日から現地へ入りまして、小千谷市を中心に活躍いただいております。

今回の対応で他の県とは違いましたのは、普通は公式に新潟県から千葉県に要請があってから動くものなのですが、それでは間に合わないということで、要請がなくても地震発生の翌日には新潟県庁の中に 3 名が福島県経由で入りまして、地元の要望をどんどん聞き取りまして、千葉県庁の対策本部と連絡をとりながら速やかに動いたことです。ほかに水道とか医療関係の皆さん、保険士さんや県立の病院の先生なども現地に入りまして心のケアや医療の救護活動をしております。また、土木や建築関係ではくずれた建物の診断をする診断士が現地に入っております。ほかに食料や水，応急備品として毛布や防水シートを相当の数、現地のほうへ送り込んでいます。さらに県から災害見舞金の 100 万円、県議会から 100 万円あわせて 200 万円が公式に贈られているほか、県庁職員一人一人の募金が 1,023 万円ほど集まっており現地のほうへ贈られています。これ以外にも NPO の皆さん独自で現地へ入っている方もたくさんいらっしゃると思いますし、今日会場においでの皆さんの街頭での募金等、それぞれのお立場でご協力いただいていると思います。それぞれの皆さんに心から感謝申し上げたいと思います。

小西

ありがとうございます。このような災害が起きたときに私などは、あかちゃんのオムツとか寝たきりのお年よりのオムツはどうするのだろうってすぐそっちのほうへいくのですが、今回のこの企画に最初に手を挙げてくださいましたのは中村俊彦さんなのですが、男性は非常にその辺ロマンティックで、新幹線とき 325 号が脱線したけれど、事故にならなかったのは神の鳥とも言われるトキのおかげじゃないかなんて、ちょっと私が言うとくさいかなって思うところから、チャリティコンサートしようって言い出したんですね。その輪がこんなに大きく広がっていったということで、そういう感覚って非常に大事だなってつくづく思います。

先ほどの歌でとても感動的に皆さんの心をとらえた、高岡さんにお尋ねしたいと思いますが、高岡さんが「朱鷺絶唱」を歌われるきっかけ、トキの歌を作られたきっかけについてお話いただけますか。

高岡

今から 18 年くらい前だと思いますけれども、アオというトキが亡くなったときに大きく新聞でも報道されました。たまたま佐渡のトキの棲んでいる山の近くで真野町というところに親しくしていたお寺のご住職がいらして、また千葉県の文化財関係で平野元三郎という先生の両方の方から「トキのアオが死んじゃったじゃないかっ！どうするんだよ」って言われました。それで「どうするんだようって、トキのアオが死んじゃったらどうするんですか？」って言ったら「トキがいなくなったら日本の国がなくなっちゃうんだよ！」って言うわけです。「トキが滅ぶ時は日本も滅ぶ」って言う人もいますので、それくらい大事だったわけです。

また、トキというのは殺すばっかりで誰も供養した人がいないらしく、日本には白鳥をまつった神社はあってもトキをまつった神社などは全然無いそうです。それであなたが歌にして歌って供養しなさい

って和尚さんと考古学者、両方に同じこと言われました。当時、新潟に行く汽車がトキだってことは知っていましたし、トキが飛んでいるのをテレビなんかで見たことはありますが、詳しいことは知りませんでした。ところがどんどん資料が新潟と千葉から送られてくるわけですね。うずたかく。それで「これは創らなければいけないかな」っていう使命感をもちだしまして、それが私のトキとの出会いになるわけです。そして、佐渡のセンタートキに逢いに行きました。そのうち、だんだんトキが私に乗り移ってきた感じで、それが「朱鷺絶唱」という物語を作るきっかけでございます。

小西

ありがとうございます。トキのアオが死んでどうしようというそんな想いから、このトキの歌が生まれたということですが、トキの保護のためにトキプロジェクトというのがあったそうです。その保護対策に直接関わられた宗近さんにそのプロジェクトの歴史などでもお話していただければと思います。お願いします。

宗近

宗近でございます。私は東京都に勤めておりまして、トキの保護に関することをいろいろ指導して欲しいと新潟県から言われました。それともうひとつは文化庁、トキの保護は従来、文化庁にあったのが、あとで環境庁へ移ったわけですが、最初文化庁のほうの管轄のときに動物園水族館協会というのがございまして、そこに動物園として保護を手伝って欲しいという依頼を受けまして、東京都から新潟へ通っていたわけです。年に 2、3 回間違いなく行っておりました。当初、十羽を超えるだけの数はいましたが、残念ながらそれが行っている間に少なくなっていって、最後にはキン一羽になってしまい、それも昨年 10 月 10 日に亡くなってしまいました。

当時、日本のトキを増やすために、昭和 53 年に最後の手段として卵を採ろうじゃないかというプロジェクトが始まりまして、報道関係、その他いろんな所、全てに報道管制をしました。そして昭和 53 年の 4 月 3 日だったと思いますけれども、両津から新潟空港、それから羽田を経由して上野動物園へ三個の卵を運びました。そういうことをやりましたけど、残念ながら無精卵で一羽も孵化することはありませんでした。それからはそういう移動もなく、かたや「千葉の動物園を造るから誰か若いのを」という話が出て、今から約 20 年前、昭和 55 年に千葉に来まして昭和 60 年にオープンしたわけです。それ以来ずっと千葉にお世話になっています。そういうことでございます。

小西

ありがとうございます。初めてここで公開されたようなお話もあったのかと思います。そのように繁殖の努力をされたにもかかわらず、なかなか日本で繁殖することが出来なかったということですが、こうして聞きますとトキは非常に私たちの手の届かない所にいる遠い鳥のような感じもしますが、先ほどの時田さんの絵などを見ますと、蓮田のなかで餌をとっている絵、それから人から獲物をもらっているような写真というところを見ますとトキというのは非常に人の暮らしあるいは、人の匂いのする所にかつてはいた鳥のような気がします。トキのその生態ということでもう一度、宗近さんに少しお話いただけますでしょうか。どのような所にいる鳥なのでしょうか。

宗近

トキというのは最後のキンのように決して警戒心が強いわけではありません。しかし、あまりにも人に慣れているものですから、この話をして良いものかどうか判りませんけども、昔は一番下手な鉄砲撃ちが一番はじめに撃つのがトキだって言いました。それほど人を恐れなかったということですが、そう

いうことが重なってだんだんと臆病になってきたということだと思います。でもキンも他のフクというトキだって、どのように捕まえたかっていうと手で捕まえたのです。何でそういうことができるかというと、もの凄く人懐こいんです。それでトキの別名をドウと言っています。これは鈍重だという意味も含めているようです。

トキは本来、里山の鳥だと思います。御覧になってわかると思いますが足が短くて決して雪国に適した鳥じゃありません。ですから大雪の降る所にはいません。佐渡でも北の方の大佐渡の方には早くからいなくなって、ほとんどが小佐渡、あまり北から雪が吹きかけて来ない南側の暖かい所にいたということです。そういうことですから決して人と離れた本当に深山に棲んでいるような鳥ではありません。里山に田んぼがあって適当な大きさの木があって、そしてそこに巣をかけて、その前には田んぼが広がっている、そういう地形が彼らにとっては一番いいと思います。それも頂上からちょっと下がった八分目、七分目くらいの所で南側に面していて、ひらけた所に巣をかけます。そうすると飛び立つときに「ふっ」と飛べて、そのまま「すぅっ」と降りて行けるような所です。ですから田んぼに近い所、田んぼと切っても切れないような関係にあったわけです。

それが減反政策でどんどん、特に高い所にある棚田が、今、完全になくなってしまいました。そういうことでだんだんトキが滅びてきたというふうに考えていいのではないかと思います。決して人を怖がり越冬していた鳥じゃありません。ですから先ほどの時田さんの絵、それから中村さんの話を聞いても、千葉にいたというのはそのとおりだと思うわけです。やっぱり里山にはトキがいなければいけないかなと私も思っています。

小西

ありがとうございます。里山とは切っても切れない鳥だというお話ですね。大槻副知事、里山などで遊びをしたとか、そういうことがありましたら、ガキ大将だったか、いじめられっ子だったのかはわかりませんが、小さい頃のお話しをして頂けますか。

大槻

さっき申し上げましたように、私の生まれが新潟県の湯之谷村です。震源地近くの堀之内というところから、ちょっと北側にいきますと小出という町があります。そのとなりが湯之谷です。「お湯の谷」の名前のごとく大湯温泉とか、昨今、本物のお湯が流れているということで大変お客さんが多くなっている場所でございます。この湯之谷の積雪を皆さんは想像できますか？７メートルぐらい平気で降る場所です。最近、結構暖かくなってきておりましてそんなに降らないと聞いておりますが、7m の雪っていいますと電柱まで雪がすっぽりおおいます。雪国の家っていうのは１階が下駄状態になっていて、これはどちらかというと車庫で、居住区が２階、３階です。大雪で除雪が間に合わなくなったら２階から出入りする、それが雪の新潟の家の造りでございます。

当時私は湯之谷で生を受け、堀之内に４歳くらいまでいて、その後新潟の近くの新発田市という所に移っています。そこに小学校を卒業するまでいました。その当時の里山の原風景といっても、本当は湯之谷の小さい頃の記憶っていうのは薄いのですが、最近湯之谷に行ってみて思うのはブナ林が里山までずっと降りてきているのが特徴だということです。近くに銀山平というブナの原生状態が非常に良く保たれた場所がありました。ところがなぜか私の親父があるパルプ会社おりまして、その辺のブナ林を全部切り尽くしてしまって、そういう親父でございます。その辺の山を見てみますとノタリっていうブナが斜面に沿って下に向かって生えて、ひも状のブナの若木が斜面をずっと下ってそして雪が解ける時に、雪が重みで下をプレスしますが、だんだん時を追うごとに這い上がって弓状になったブナが小さく見える場所が私の湯之谷の周辺の森の姿です。そこでお袋達は雪解けの時期をねらって、月の連休頃にゼンマイを採ってきて干してそれを食生活の足しにしていました。新発田に移った後も、この湯之谷には夏

休み毎に帰っていました。山間を流れる川は印象的です。川面がエメラルドグリーンで、深い緑の川がこうこうと水を流していました。その周辺の里山の田んぼで昆虫採集なんかしたり、色んな夏休みの宿題の為の材料を採ったりなんてことでずいぶん遊んだ思い出がたくさんございます。

また、合せて新発田の近くでは、今思うとさっきのトキの松林が昭和 30 年代ぐらいにはまだまだ残っていましたが、その松林の下にオレンジ色の山ツツジが、トキ色かもしれないですけど、そういった山ツツジがたくさん生えていたのが新発田の近郊の里山でございました。実はそういう所へ親父達と、今は禁止されておりますが、かすみ網をコッソリ持っていってメジロ獲りをしたりしました。決してそういうことをやっちゃいけませんよ。子供ながらに可哀想というよりはむしろ可愛い小鳥が自分の手に来て、そしてそれを竹ひごの篭に入れて鳥の観察ができる。考えてみると、あれダメ、これダメというよりは、そういったことも多少やる中で動物の動きをじっくり見られるという、そういう環境が本当は子ども時代にはいるのではないかなと私は思います。小さいときの里山との思い出はそういった、まあ、今で言えば悪いことをやりながらけっこう楽しんでいたことが思い出になっていますね。

小西

ありがとうございます。やはりこの中にも小さい頃、鳥を捕まえたり、魚を捕まえたりしたご経験をお持ちの方もいらっしゃると思います。残念ながら今の子どもたちはそういう場にも恵まれないし、そういった機会にも恵まれることもないかと思われますが、本当に生き物を捕まえることも、例えばコオロギにしても、手にとったそのときガサガサって指の中で動くその感触とか、鳥を捕まえたときのあの温もりとか一度味わうと一生忘れられないそんな感触だと思います。ですからぜひ子どもたちにも体験して欲しいなと思います。

さて、私たちは残念ながらトキを田んぼなどで見たり触ったりすることもできませんが、千葉にもトキがいたということで、その千葉のトキに関するお話を高岡さんから以前伺ったことがあります。高岡さん、千葉のトキについて秘密のお話をひとつしていただけませんか？

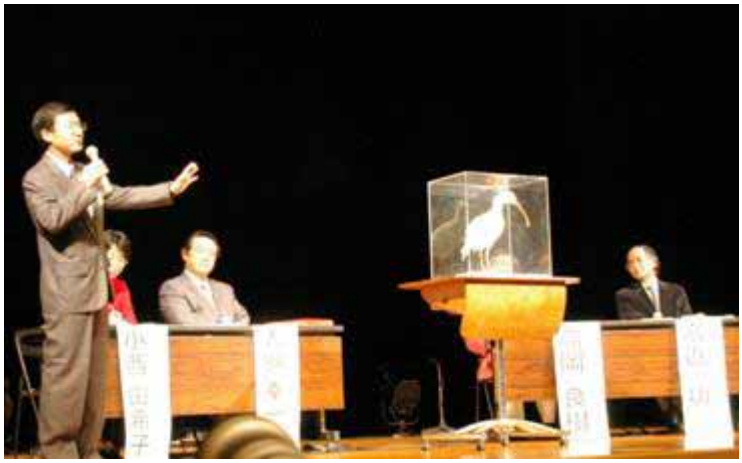
高岡

最後のトキというのは、確か昭和 28 年に市原市の五井の金杉という所にいたとデータに残っているわけですが、ある日トキがいて、翌日もいたという記録はないので、それっきり飛んできたトキを見たという人はいないわけです。もしかしたらですけどサギと間違えて、昭和 28 年ごろって空気銃とか鉄砲とかすごく普及していましたから、撃たれてしまったのではないかな、という思いがあります。私はそのトキは今どこにいるのか、もし撃たれたにしてもどうしたんだろうっていう疑問がありました。

なんか、私の身近に、そのトキがいるような不思議な予感と言うか感じがするものですから、色んな人に「私、トキの物語を創っているんですよ」と言っていました。そうしたら「ああ、トキだったらウチの学校の物置の中でホコリかぶってるよ」っていう人が現れて来て、「ええっ」って驚いたわけです。そう言った人っていうのが鴇田さんっていう方です。掃除しているときに「アヒルかな？これ」と言うので、「これトキだよ」って僕が言って、「ホコリだらけで凄かったよ」なんてやりとりがありました。そういう話がありまして、なんとそのトキが今日はここまで飛んできているというのですけども。お見せしますか？ちょっと小さいトキですけども千葉市にずーっと、いつからいたのか解りませんけど、剥製のままでいたトキを迎えたいと思いますが、どうでしょうか。そちらの方で仕度は。

小西
　トキの登場です

高岡
　これは県立博物館にもありませんし、何処にも無いですよ。



小西
　では、箱の中からトキを、

田中正彦
　千葉高校の標本室にあった「トキ」を連れて参りました。今週はじめに運んだのですけど、最近千葉市に警察官が多くて職務質問されたらなんて答えようかって非常に不安でした。
　私がこのトキの標本をはじめて見たのは25年程前で、さっき高岡さんがおっしゃったように標本室の片隅にありました。今では最近、転勤してきた先生がこういったにケースの中に収めて保存しています。ただ、残念ながら、コンディションが余り良くなくて実は一部アヒルの羽を使って誤魔化しています。もしかしたらこれが昭和28年に千葉で最後になったトキかな、という思いをはせながら御覧になって頂ければなと思います。「トキ」登場です、ごゆっくり御覧下さい。

小西
　さて、魅力的な歌をうたって下さった高岡さんをくってしまうような、トキが出てきましたが、後で皆さんにはごゆっくり見ていただきたいなと思います。思ったより小さいなと、私は思ったのですが。
　いかがでしょうか、宗近さん、実際のトキは。これは子どもなのでしょうか。もう少し大きくなるのでしょうか。

宗近
　剥製の作り方によって随分、大きさは変わります。チョット細めに作ってあるのかなと思いますが、トキとしては、大体、大人だと思います。嘴の具合を見れば大体、親か子供か解ります。ですから成鳥であったと思われますけれども、何処で捕まったのか解らないのがちょっと残念ですね。いつ捕まったというのがはっきりしていれば、非常に貴重な記録だと思います。
　ただ、千葉はですね、私がまだ東京にいる頃に稲毛の海岸近くの方でノガンという鳥が、日本にも迷鳥で来るようなあまりたくさん来るような鳥ではありませんが、その剥製もあるという話を聞いたこともあります。千葉は意外といろんな鳥が結構飛んできているのですね。もうひとつトキは、元々、南方系で寒い所の鳥じゃありませんので、千葉のような暖かいところは非常にいいと思います。佐渡で一番困るのは、雪がかぶって水面が無くなることですね。ですから千葉の場合にはそういうことがまず絶対にないといっていいと思いますので、環境としては非常に良いと思いますが。

小西
　ありがとうございます。千葉がトキの環境としては非常によいのではないかというお話でした。先ほどのトキを描かれた方が、市原の五井でトキを見て、今、その絵が市原市にあるということですが、実は今日は市原市の佐久間市長さんがお見えです。少し市原の環境のことを、市原市の里山についての思いなどを、少しお話いただけないでしょうか。

佐久間隆義市原市長

皆様こんにちは、今日はこういう機会を作っていただきましてどうもありがとうございます。（トキの標本をみて）「多分市原にいた、トキさんでしょうか？」。わたくしは市原の市長を今、させていただいています。どこにでもあった里山、谷津田が、今ではなかなかいい環境で見られない状況になっています。トキの顔を見ていると嘴が大変長いので、嘴を突っ込んでザリガニやドジョウを餌として捕まえたりとかしていたのでしょうね。今、私の顔を見ていますね。いや！本当に見ていますよ。「俺になんか訴えているなって」。

大槻さんが湯之谷村の出身だそうですが、私も同じような山の中で市原の牛久という所で生まれ育ちました。いわゆる里山で暴れまわって傷だらけになった、そういう思い出がたくさんあります。そして、虫や動物達、ヘビを捕まえたりしたこともありましたし、そういう、子供の頃の時間を過ごして今があります。そういう環境や時間を与えられる機会が少ない今の子どもたちが、どんな環境で、どんな成長をしているのか、いろいろな方が研究されています。携帯電話とかゲームとかテレビでここのあたり(ひたいに手を当てて)を、塗りかえられている、印刷され直されて、感覚がおかしくなっているなんていう話もあります。「今こそ、土に戻りたい。自然に戻りたい。戻っていただきたい。そういう環境を子どもたちに与えなきゃいけないな」と、そう私は思っております。

今日はひとつの決心をしました。「トキが住めるような郷造りをしよう」ということです。私たちの市には 28 万の市民がいます。臨海部には日本を代表する工場や石油コンビナートがあります。日本は工業化にともなって、みんなの生活が変わって、核家族になったころから変わってきたように思います。いろんな環境の中で子どもたちは成長していますけれども、もう一度、原点に還る時期が来たのかなと思います。「そうだろう」という顔をトキが、トキ様が、私に訴えっているようでございます。どうかこの、シンポジウムを機会に皆さまのいろんな知恵をいただきたいと思います。市原には広大な土地があり、自然もまだまだ残っておりますし、谷津田も残念ながら荒れてしまっているところもありますが、いっぱいあります。トキに来ていただいても満足をしていただけるようになると思います。喜んでトキが飛んで来てくれるような環境を私は、造らせていただこうと思っておりますので、皆さまよろしくお願いします。

小西

ありがとうございました。それから先ほどのトキの絵を描かれた時田直善さんの息子さんでいらっしゃる時田豊さんにお聞きします。お父様が、絵をお描きになっている時のご様子など、もし憶えていらしたら、あるいは自然についてのお考えなどを、少しお話いただけませんか。

時田豊

突然のおはなしですが、父が残した文のなかに「トキの顔はすばらしい顔をしている」と書いたものがありました。そういうところに相当惚れたような感じで、トキの顔を一生懸命描いていたと思います。トキが生きているように、心臓が動いている様に、生命感を描きたいって言うことで、私の父はいつもトキを描いていましたね。昔からシャモとか、ニワトリとか、ツルとかの鳥は描いていました。トキを描くにも、鳥の骨格はだいたい基本は同じなわけです。そういう面でトキを描くのにも相当に楽だったと思います。もう千葉でトキはいなくなってしまいましたけども、今の時代、トキを蘇らせる、実際そういう時代になってきましたから、父も喜んでいると思います。ありがとうございました(拍手)。

小西

ありがとうございます。是非、こういう活動、応援していただけたらと思います。それでは、トキが非常に身近な動物であるというお話がありましたが、先ほど佐久間さんがおっしゃったように、市原をトキの里にできるのか、その可能性について、少し考えていきたいと思います。

宗近さんにお尋ねしますが、飼育ということで、その千葉での飼育の可能性にふれていただけないでしょうか。

宗近

いきなり飼育ということになりますとちょっと困る面もありますが。今現在、千葉市動物公園でも違う種類のトキを飼ってたくさん増やしております。もともと、トキというのは比較的　、飼いやすい鳥です。そして、増やしやすい鳥です。でも、この *Nipponia Nippon* だけは、もう体力的に、いろんな物が入ってしまっていることと、高齢化していることから、受精卵が取れませんでした。しかし、中国から来ているトキが現在、大変よく増えているのがそれを裏付けていると思います。今の技術で、千葉の動物園で、十分、飼育して増やすということは可能だと思います。

保護センターには今、58 羽おりますけどもこれは危険な状態です。もしこの間のような鳥インフルエンザのような問題が起こりますと、一ヶ所においておくと全滅してしまうことがあります。それで今、何か所かに分散させようと、はっきり環境省も考えているようです。多分、一番協力している上野動物園とか、多摩動物園とか施設の整ったところへ、危険分散をはじめると思います。先ほど中村先生のスライドにトキの日本の分布が出ていましたけど、中国地方とか、石川県とか実際に羽を採る為に、生息地から移動させたことがあります。石川県の前田家が摂津の辺りから 100 羽も動かしたという記録もあります。それから広島ですと、安芸の国ではたったひとつがいだったのがそのあたりいっぱいになってしまって、それを徳島に持っていったということもありまして、かなり人工的に動かしているのです。ですから場所と環境さえよければ決して増えない鳥じゃないと思います。用途はいかがかと思いますが、羽を飾りにするためとかで昔は移動させたという記録が残っています。

中国のトキが見つかったのは毛バリに使う羽根を中国から輸入したときに、これはどうもトキじゃないかっていうのがありました。それで中国にトキがいるのではないかということで、中国から来る動物関係の方にそのことを聞くと、緘口令が敷かれているのか、何も言いませんでした。そんなことをしているうちに、日本の研究員が聞き出し、生存していることがわかりました。それにしても中国も一生懸命、増やしていて、その恩恵を日本はいただいている訳です。ですから、まず千葉というところは湿田があること、ある程度暖かいこと、つまり凍らないということがありますから、そうすれば彼らは、充分に生きていけると思います。それには、谷津田も必要だろうと思っています。

小西

どうもありがとうございます。お話を聞くと、トキが本当に復活するために千葉は適しているところというふうに考えられるので、千葉の空にトキが舞うのも、案外近い将来かもしれないし、私たちの取り組みや想いによっては、ずっとずっと先のことかもしれないなと思います。本当にこればかりはトキに聞いてみないと解りませんが。トキというのは非常に人の身近でありながら、神聖でなにか謎めいた神秘的な鳥であると思いますが、そのトキに対して歌を創られた高岡さんはトキに関することを調べて

おられますが、トキへの愛情ですとか思い入れですとかその辺を少し語っていただけないでしょうか。

高岡

　想いというか、愛情というか。歌手というか、私は語り物の音楽をやっていますので、どちらかといいますとシャーマンといいますか。歌を歌っている時、その対象が乗り移ってくるような感じがします。しかも私はシャーマン性の強い歌手なものですから、怖くなってその歌がいやになる歌があります。朱鷺絶唱の場合は歌いだして 17，8 年になりますが、我がことの様に、歌っていると乗り移っちゃっている感じです。それで私もトキのように、終わっちゃうのかなって一抹の寂しさもあるんですよ。

　トキという鳥は、さっきもお話ありましたけど、あまり人間を怖がりません。キンにしても宇治金太郎さんという方が捕まえて、毎日餌を与えたりしていました。宇治さんにすごく懐いていた訳です。最後に保護センターが、トキを一箇所に住まわせるといった時も宇治さんがキンを抱いてかかえてセンターまで連れてったそうです。それまで野性で飛んでいた鳥を檻に入れてしまったわけですが、これが幼鳥の頃から人に懐いていれば怖がらないようです。

　ところがトキも随分人間にひどい目に遭わされたようで、トキの保護センターに行きますと、まずコートを脱がされます。すごいハデハデしいジャンパーとか、軍服みたいな格好ですとか、厚手のコートとかいかめしい服装をしている男だと、トキが脅えるので、脱いでから入るわけです。すごくデリケートな鳥だと思います。冬場、行くと寒いですよ、脱いじゃうんですから。だけどなぜか私の目の前で飛んでくれました。トキがふわーって。で一緒にいた保護している人が「わーっ、高岡さん運がいいですね、トキが喜んでいますよ」って言われたので、それでますます自分の分身みたいな気持ちでいます。今度は、58 羽いるトキが、各地に分散されて、自然に放されて、人と調和していくことになろうと思いますが、実はドウのハナグサレといって新潟県の方では、トキを嫌うお百姓さんもいらっしゃいます。田んぼや畑が踏み荒らされるので、新潟県にあるトキの歌はトキのことをあまり良くいわない歌が多いです。そうかと思うとトキのいる田んぼは米がよく実るっていって大事にする地域もあります。

　先の話にあったように、金沢ではトキを放してその羽根を住民に拾わせて買い上げていたそうです。一説によりますと、あの平将門のこめかみを、射抜いたのはトキの矢であるというんですね。だから、邪悪な者を滅ぼす時にはトキの羽根が良いなんていうのがあるのですけども。ですから私も命ある限り、朱鷺絶唱を歌い続けてようと思います。

小西

　トキの話を聞かせていただくと尽きなくて、もう１回くらいこのような場を設定して是非お話をうかがいたいなと思います。「ちば」というところでトキに象徴されるような鳥とか、里やまの生き物を復活させ、豊かにさせていくためには、実際どのような政策が必要なのか、どのように千葉県全体で、あるいはそれぞれの市町村で展開していけばいいのかということを大槻さんのほうからもう少しお考えをおはなししていただけたらなと思います。

大槻

　先ほどからトキの生きていた環境についていろいろお話がございました。私も初めてうかがったのですが、マツ林の上のほうにねぐらとなる巣を作っていたということです。たぶんこれはトキにとって見晴らしのいい、そういう環境であったと思います。そういう視点から今の森を見たときに、マツというのは北海道までいきませんが、青森県近くまでほとんどの松林が、マツケムシにやられてしまっています。これは北アメリカを原種とする、日本にも非常に長い歴史を持った病害虫なのですが、日本全体を

あげて松林保護のためにいろんな薬剤を使ってがんばっていますがうまくいっていません。特に最近、日本海沿いの風をふせぐための防風林が壊滅状態になっています。千葉県を見ると非常に若い松林は上手に育っています。稲毛海岸辺りはむしろ育ちすぎくらいに育って、早く間伐しないとだめになる松林もたくさんあるのですが、じょじょに松林はこれから復活する兆しは見せております。

でもトキが夜、ねぐらを作るほどの太い松があるかというとちょっと疑問なので、夜の寝る場所の確保は大切だと思います。それと水田や谷地のように、ドジョウだとかの餌をとる環境が必要だということですが、そういう意味で千葉には谷津田という手のひらみたいな状態の里やまがあります。これは尾根の間に水田が入るという、千葉の特色となる地形だと思います。でも残念ながら、この谷津田に休耕田が増えると同時に、そこをねらって産業廃棄物の不法投棄をしたり、さらには見解は多少、分かれるところですが、残土に使って埋め立てたりということで、湿田環境がどんどん少なくなっている。それをどう防ぐかっていうことで、おそらく今日会場にいらっしゃる多くの方も「環境」をキーワードにして、日常活動していただくことも多いと思います。森の形成という立場から考えると松林をどう復元するか、あわせて見通しの悪い常緑広葉樹だけじゃなくて落葉広葉樹も上手にミックスされた、針広混交林を新しい姿で作っていく場所も必要かと思います。今日午前中、白井の方に用があって行ってきましたが、平地林にモミの木がぽんぽんぽんと立っている不思議な千葉の植生が見られます。

昔、氷河期の寒い時代に生きた針葉樹が、氷河が去った後に残されたという不思議な地形ですが、そういう特色ある自然環境を守りつづけながら行くためには、森に積極的に人手を加えていく必要があるというのが意外と理解されないですね。ほうっておくと次第に森の中の竹がどんどん増えていって薄暗い森になってしまう。また、常緑広葉樹がどんどん繁茂していくと、日中暗い、どちらかというとおどろおどろしい森になってしまうわけですが、できればそういう森に、今ごろになると葉っぱがきれいに落ちるような落葉広葉樹を組み合わせるような森を作っていく必要があります。

竹を切ったり、落葉広葉樹を植えてやるための人手をどうやって確保するかということになりますが、皆さんご存知のように昨年の全国植樹祭を契機に千葉の里山を積極的に手入れするための仕組みを作ろうということで、「里山条例」というのができています。一口で言うと、手入れができなくて困ったなという山持ちさんと、どんどん山に入っていこうという NPO の皆さんの間で「協定」を作っていただいて、それを県知事が認証します。さらに、そういうものに対して県から技術的なバックアップと同時に、いろんな資機材を買うためのお金を助成する、そんな仕組みがあります。ちょうど今日の時点で、25、26 の協定が立ち上がりまして、年度内には 30 近い協定ができる予定で準備しております。非常に元気のいい「山はまかしとけ」という NPO のみなさんがたくさん出てきているのが心強く、そういう方々の力を借りながら千葉県内の里山にどんどん人手を入れていくことが一番大事だと思います。

たぶんこのトキ、さっき申し上げたように、松のような見晴らしのいい高いところに巣を作り、そこから水田を見て飛んでいく、そんな場所が欲しい、あるいはドジョウやらゲンゴロウだとか食べられるものがたくさんある水田を作って欲しいといっているのだと思います。まさに日本の国旗の中心にある朱の色のトキが、新潟よりも暖かくて餌もたくさんあり人情ももっといい、というと新潟の人に怒られるので困るのですが、日本の中心にあって、全国から集っている千葉の市民はトキをあたたかくむかえ

るぞということを、会場にお集まりのみなさんも今日を起点に活動していただければ、千葉の里山にいつかトキがやってくるのではないでしょうか。第一号は佐久間市長さんの市原かもしれません。そんなふうに期待しております。里山に手入れを行い技術的に森作りとすると同時に、市民の皆さんが「環境」をキーワードとし、子どもたちのために自然観察会をやるなど、心をこめた活動を是非やっていただきたいと思っております。よろしくお願いします。(拍手)

小西

3人のパネラーの方にはまだまだお話していただきたいところですが、そろそろ時間となりましたので簡単にまとめをさせていただきたいと思います。

大槻さんがおっしゃったように政策として里やまを守るということも大切ですし、宗近さんのようにご研究される立場の方にもご活躍いただきたいと思います。しかしそれを支えていくのが私たちひとりひとりの県民であり市民であり、町民であるということを私たちがここで心に誓っていきたいと思います。やはり今回この場で私たちが同じ時を過ごすことができたのは、地震の被災地を助けようとの思いでもあり、トキを復活させようとの思いでもあったわけですが、このように本当に今まで興味の先が違っていた仲間がこうして一堂に会すことで私たちが自然と文化や芸術ということに心を動かされ、そして一つの目的に向かって動いていこうとすることができるわけです。

今回私は宗近さんから、トキの保護は最初、文化庁だったのが環境庁に移ったという話を初めてうかがったのですが、自然ということも文化ということも共通点が無いようで実は私たち人の気持ちを揺り動かすその原点であると思います。こういうものに接して私たちは現実のことも解決していき、そしてロマンを追い求めて、私たちがそこに力を得て歩き出すことができるのだと思います。私たちのこの気持ちを、今、新潟で寒い中、苦労していらっしゃる皆さんに少しでもお伝えできればと思います。本当に今日はパネラーの皆さんどうもありがとうございました。(拍手)

＜高岡良樹・潮見佳世乃親子コンサート＆朱鷺絶唱＞

曲目
＜親子コンサート＞
アウトドアライフ
少し冷たい風が好きです
愛は藍色
コスモスのうた
Ｋｉｓｓ
祈り
ターコイズブルー

＜朱鷺絶唱＞

恋こそマイウエイ
（アンコール）

今回のトキシンポコンサートについて，大槻幸一郎さんが，「朱鷺絶唱」の CD とともに佐渡の曽我ひとみさんにも伝えてくださいました．これに曽我さんからすぐにお便りが届きました．そのお便りは，すごく素敵で，大変よろこんで頂いたことがわかります．

「このたびはお手紙そして CD を送っていただき，とてもよろこんでいます．
ありがとうございます．こんなに心あたたまる話を聞き，佐渡の人としてありがたいかぎりでございます．本当にありがとうございました．大切に聞かせていただきます．
自然を愛するすばらしい人に出会えてとてもうれしいです．トキもきっとよろこんでいると思います．ありがとうございます．これからもよろしくおねがいします．

平成十六年十二月二十二日　曽我ひとみ

Ⅱ．会計報告

1．収入	チケット売上・カンパ	¥1,316,473
	合　　計	¥1,316,473
2．支出	教育会館大ホール使用料	¥111,080
	楽屋使用料	¥6,780
	音響経費	¥101,500
	照明経費	¥44,600
	音楽演奏経費	¥200,000
	チラシ・チケット郵送代	¥30,840
	チラシ・チケット・プログラム印刷費	¥5,335
	駐車場代	¥3,600
	花束	¥3,000
	ビデオテープ	¥1,280
	音響・照明スタッフ昼食	¥2,800
	音楽スタッフ昼食・夜食	¥12,400
	合　　計	¥523,215
3．義援金	(収入)ー(支出)	¥793,258

※チケット１枚は ¥2,500

12 月 24 日、NHK 千葉放送局局長 遠藤雅俊氏（写真前列中央）に、朱鷺コンサートで集めた新潟中越地震義援金のすべてを手渡しました。

郵便はがき

260-0013

千葉県千葉市中央区中央３－１３－１７

殿

受領証

このたびは 新潟県中越地震災害義援金として

金 793,258円を確かにお預りいたしました。

No.

平成 16年12月24日

日本赤十字社

社長 藤森 昭

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3

TEL 03（3437）7084

日本赤十字社から届いた領収書

『谷津田フォーラム in 丸山町』まち歩きのまとめ

NPO 法人 ちば環境情報センター　小西　朝希子

2003 年 11 月 23～24 日に第 8 回ちば・谷津田フォーラムシンポジウム「谷津田フォーラム in 丸山町」が実施された。筆者はその時スタッフとして参加した感想などを、ちば・谷津田フォーラム会報「里山の自然誌」10 号（2004 年 2 月 1 日発行）で報告した。

今回はその時実施した「町歩き」を通して、各班（海辺・田んぼ・雑木林コース）ごとに検討された、丸山町のいい所，良くないところなどをまとめたので、追加報告する。ここで指摘されたことが、里山環境の保全活動や、環境特性を生かしたエコツアー実現による町の活性化などに活用されることを願っている。

町歩きの報告

各班から指摘された事柄を以下にまとめた。

ポイントごとに・・・○いいところ、×よくないところ

海辺コース

海辺コースでは丸山町の三嶋地区を歩き、気づいたことをワークショップでまとめ、町の自然を観光に生かすエコツアーの開催を提案した。『Day&Night エコツアーin みしま――里うみのいやしを求めて――』と題し、丸山町の三嶋地区のいいところをいかした一泊二日の体験ツアーである。歩いたコースは、開会式の会場であるシアターホールを出発し、丸山川・海岸・三嶋神社・集落を通ってホテルへもどるものである。海辺コースのメンバーは地元の人 2 名を含む 10 名であった。

海岸を歩きながらいい所と悪い所を探す

ａ）丸山川

○リバーサイドプラザ（丸山川の左岸にある公園）のギリシャ神話、寄ってみたくなる
○風車の中に野鳥の巣　○昔の湿地　○湧水　○ボラがいた
×ボラしかいなかった（昔はウナギとモズクガニがいた）
×リバーサイドプラザのギリシャ神話、遠くから見るとお墓のようで近寄りがたい
×リバーサイドプラザのギリシャ神話、ミスマッチ
×リバーサイドプラザ、公園の維持・管理にお金がかかる
×風車がまわってない　×護岸が崩れそう　×生活排水の流入
×コンクリート護岸が危険・不自然　×川が親しみにくく、近づけない

ｂ）海岸

丸山川から三嶋川の間

○河口の形がきれい　○野ウサギの糞がいっぱい
○海岸植生のゾーネーションがはっきりしている
○ハマボウフウ（食べられる・薬用）、ハマヒルガオ
○砂風呂ができる（砂浜の砂は鉄分が多い、地元のおばあちゃんの実体験あり）

三嶋川付近

〇マツ林がきれい　〇大きな波と大きな波音　〇スジエビが捕れた

×風よけの柵によってマント群落がなくなってしまった　×ゴミ

ｃ）三嶋神社周辺

ため池

〇湧水、ため池がよかった（美しくて神秘的）〇ヤマトヌマエビが捕れた

×ゴミ　×周辺にコンクリートが捨ててあった　×笹が多く、荒れていた

三嶋神社では地元の大川氏の話をうかがった

三嶋神社

〇マキの生け垣がきれい

〇木づくり、大木

〇透かし彫りのデザイン（明治期のもの）

〇八百万の神を拝める（弁天・稲荷・浅間・金毘羅など）

〇木造であり歴史を感じる　〇大川さんの昔話

ｄ）さと道（集落）

〇牛のにおいに懐かしさを感じた

〇昔の生活道

〇遠藤さん（地元出身の方）が綱つりをつくると宣言した

〇綱つりに丸山町の心をかんじた（個性・農村の心）

〇庚申塔の発見　　〇今も庚申講の行事がのこっている

〇斜面に季節はずれのホタルブクロやカラスウリなどあり、秋を感じた

〇斜面と水路と林の手入れがしてある　〇ススキがきれい　〇景色がよかった

〇橋と鉄橋とローカル電車に風情をかんじた　〇アオサギがいた

×三面張りコンクリートはひどい　×道路の橋脚が大きく景観を損ねる

×地元の人は牛のにおいがイヤ　×昔の生活道があれていた

×ドラム缶がじゃま　×ゴミが多い　×田んぼの景観が不自然で荒れていた

×まわってない風車、しかもコンクリートづくり

◆提言

＊風力利用を前提にした「風車の村」作り

＊川のコンクリート護岸を自然にもどす

＊道路計画の廃止

＊癒しの場（波・うさぎ）としての利用

＊砂風呂、ヒーリングを実現

＊海岸のゴミ拾いボランティアを募る

＊エコツアーを企画

＊町の歴史を語ることのできる地元の人（語り部）を発掘・活用

＊丸山町の歴史やロマンを知る

＊地元料理（郷土料理）を広める、掘り起こす

＊風よけの柵をなくし植生復活

＊三嶋神社近くのため池復活

＊綱つり・庚申塔の保存とその伝承を学び、体験する

＜解説＞

丸山川沿いを歩いて感じたことは、生活排水の流入で川は汚れていて、護岸が崩れそうで、川は親しみを感じられない。川の両岸がコンクリート護岸で覆われていて、親水スペースがあったが危険で不自然という意見がほとんどであった。

丸山町の良い所と悪い所をマップに落とした（海岸コース）

丸山川の左岸にあるリバーサイドプラザという公園にある12星座のモニュメント（ギリシャ神話のようなもの）は、ロマンチックで立ち寄ってみたくなるという意見が一人から出たが、モニュメントは周りとミスマッチであるとか遠くから見るとお墓のようで近寄りがたいなどのマイナス意見も多かった。あまり観光客が来るようには思えない場所であり、そのわりに公園の維持や管理にお金がかかるように思えた。

また、この公園からみえる風車は、昔ながらのものではなく、飾りとしての風車であり、白色でひときわ目立っており、まわっていない風車はあまりいい印象を受けなかった。しかし、風車の中にある野鳥の巣や昔からの湿地や湧水も見られるなどいい面もあった。川ではボラが泳ぐのが見られた。昔はウナギやモクズガニが生息していたそうだ。

海岸を歩いて感じたことは、どの箇所もいいと感じられるところが多いことだった。まず丸山川からそそぐ河口の形がきれいであった。丸山川から三嶋川間の海岸の砂浜では、野ウサギのフンが多くみられた。千葉県立中央博物館の中村俊彦氏によると、薬用で食用にもなるハマボウフウやハマヒルガオをはじめ海岸植生のゾーネーションがはっきりしているため、人間も立ち入らない動物の隠れる場所ができ、野ウサギが多く生息できる環境になっている。今回歩いたところを含め三嶋海岸は、遊泳禁止で海水浴場として利用されていないためゴミも少なく、きれいな砂浜である。そしてこの砂浜には鉄分が多く、砂風呂として活用できるのではとの提案があった。地元のおばあちゃんである遠藤まち氏は、この三嶋の海岸でかつて砂療法を行い、膝や足の痛みが治ったという。その方法は、夏の暖かい時期に砂浜を掘り、10㎝ 位の砂を身体にかける。4～8 時間いわゆる砂風呂の要領でじっと埋まっている。日よけのパラソルと水分補給は忘れずに。そうすると、汗と一緒に毒素が排出され、悪いところが直るというものである。三嶋川の河口付近の海岸では、大きな波と大きな波音の迫力に感動した。周りの松林がきれいで、河口の水辺ではスジエビが捕れた。しかし、流れ着いたゴミが目についたことと、風よけのために設置された柵によってマント群落がなくなってしまっていることが残念な点であった。

三嶋神社とその周辺を歩いて感じたことは、まず三嶋神社に行く途中にあったため池についてである。このため池には湧水があり美しく神秘的であった。周りの斜面から浸みだしている水で水量も豊富で、ヤマトヌマエビも生息していた。しかしこのため池の周りにはポイ捨てされたゴミや不法投棄されたものであろうコンクリートの破片やササが多く荒れていた。今後少し人が手を加えていけば、人が立ち止まって見入ってしまうようなスポットになるはずである。三嶋神社は、境内には約 1,000 年の歴史をもつ木造の建物がいくつもあり、弁天・稲荷・浅間・金毘羅など八百万の神が拝めるところである。この神社のマキの生け垣はきれいで、大木や明治期のものである境内の透かし彫りのデザインが歴史を感じさせた。この神社で、三嶋地区に長く暮らしている大川清寿郎氏から三嶋の昔話を聞かせていただき、三嶋の魅力を再確認できた。大川氏によると三嶋はかつて地引き網漁がさかんで、きれいな海岸には、畳表の原料であるイ草や魚を干していたそうだ。三嶋では、農業と漁業が両立していたのである。地引

き網やイ草などは、丸山町のなかでも三嶋地区特有の産業である。三嶋には風車も多く、昔農業が盛んだったころ、砂地で田んぼの水もちが悪く、すぐ水が沈んでしまうため、田に水を入れる動力として風車が盛んに使われていたそうである。残念ながら、現在は観光のシンボルとして飾りの風車が建っているだけである。

集落の昔の生活道（＝さと道）では、まず牛、牛糞のにおいが気になった。筆者を含め数名の町外からの人は牛のにおいに懐かしさを感じたが、地元の人には嫌われているにおいである。三嶋神社を出て、裏の集落の路地に入るとかつて生活道として使われていた細い道があった。この道は、人通りも少なく荒れていたが、風情があってよかった。路地の分岐点に『綱つり』を発見した。『綱つり』とは、毎年旧正月につくられた厄よけの飾りのようなもので、ワラでつくられたわらじ・ヘビ・さんだわら（俵のふた）が組み合わさったものである。今でも毎年作り替えていると大川氏に聞き、この『綱つり』に丸山町の心（個性・農村の心）を感じた。一緒にコース路をまわった地元で里山保全活動をしている「ぼんた里山の会」代表の遠藤氏がこの綱つりの伝統がなくならないように作っていくと宣言してくれた。地元の伝統を守る第一歩になるであろう。また、道沿いの竹林の陰に『庚申塔』を発見した。この『庚申塔』は、林の陰にあり普段なら見落としてしまいそうな場所で、その入り口には古びたドラム缶が置いてあり、庚申塔の存在を台無しにしてしまっていた。このドラム缶はかつて防火用に設置されたのがそのまま放置されてしまっていた。この地区には、今も庚申講の行事が残っているそうである。

さと道も後半、ホテルに向かう途中の斜面には季節はずれのホタルブクロが咲き、秋を感じさせるカラスウリやススキなどが見られホッとする道であった。この斜面と林、その下の水路は手入れがしてあり、いい意味での人の営みを感じた。三嶋川沿いは、景色の良いところもあったが、三面コンクリートで囲まれた川や工事途中の大きな道路の橋脚があり、鉄橋にローカル電車という風情の感じられる景観も台無しであった。減反政策でキクなどへの転作を行っている田んぼや休耕田は不自然で荒れていた。ここでも見られた、コンクリートでできた飾り物の風車は違和感を憶えた。

海辺コースでは、それぞれの場所や三嶋地区全体で気になったことや地元の人に実現していただきたいことを『提言』という形で発表した。

エコツアーの実現と『トキとウナギとウミガメの里』を目指すために

『川のコンクリート護岸を自然にもどす』
『町の歴史を語ることのできる地元の人（語り部）を発掘・活用する』
『丸山町の歴史やロマンを知る』
『地元料理（郷土料理）を広める、掘り起こす』

a）丸山川
『風力利用（きちんと利用できる風車をつくる）』
ギリシャ神話のモニュメント→賛成意見（少数）と反対意見
×公園の維持・管理
×川への生活排水の流入
b）海岸
『ゴミ拾いボランティア』
『砂風呂・波音・うさぎで癒されよう』
〇豊かな植生・ウサギの糞、足跡多数発見・砂鉄の多い砂浜
c）三嶋神社周辺
『ため池復活』
〇湧水、ため池を守りたい→少し手を加えるだけでも改善される
〇神社で大川さん（地元のおじいちゃん）が話してくださった三嶋の昔話
d）さと道
『綱つり・庚申塔の保存とその伝承を学び、体験しよう』

『道路計画の廃止』

〇昔の生活道で歴史を発見

→綱つり・庚申塔

×ドラム缶がじゃまである→昔の防火対策であったが今は使われていない

田んぼコース

a）八幡神社付近

〇神社　×三面水路

b）笹上堰付近

〇ゴイサギ　×におい

c）田んぼ周辺①

〇カワニナ生息　〇シジミ

〇ゴミが少なかった

〇リンドウ　〇野ウサギ

〇ジュズダマ・タコノアシ

〇山上の家　×ビニール放置

d）やまいり堰付近

〇ぼんたの田んぼ　〇堰の景観

〇ヒシ・フサモ

丸山町の良い所と悪い所をマップに落とした（田んぼコース）

e）田んぼ周辺②

〇ムカゴ　〇いちご　〇しぶ柿

〇ガマズミ　〇赤ガエル

×尾根が細い　×コンクリート道路　×牛フン　×車・ゴミ

f）引越堰付近

〇椎の実　〇氷はり田　〇杉の手入れよい　×休耕田

◆その他

〇雑木の紅葉　〇ハゼの木　〇農家とお話し　×転作

◆提言

＊ 奥地の自然が残っている。利用できないか？

＊ 奥地→多自然的。農業～谷津田を再生しては？

雑木林（山）コース

a）前半（登り）

〇景観（里山、谷津田、堰）がよい→スタート地点

〇水があることは生き物の多様性など基本的に良いこと

〇野草（秋の花）が良い（複数意見）　〇海の景観が良い（パッと見えるのが）（複数意見）

〇そのままの自然が美しい。手つかずの自然

×水がにごっていて残念　×セイタカアワダチソウが多く入っているのが気になった

×和泉元彌の 2000 年記念。母親の名前があった（複数意見）

b）頂上（標高 80M）

〇ゴゼン山（おっぱい山）、樹木と海の眺め

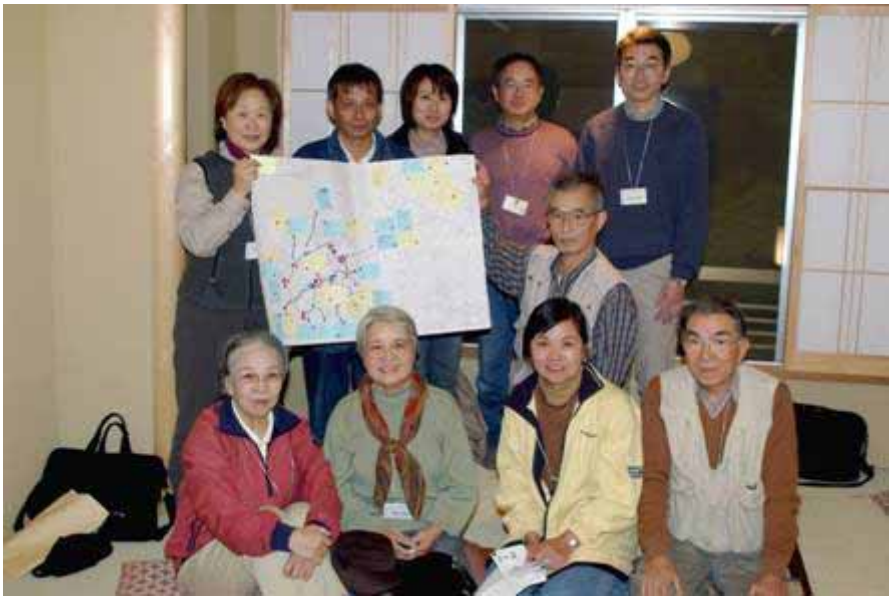
〇海と房総の山なみの景観が良い　〇風景と樹木（複数意見）

c）後半（下り）

〇イチゴがおいしかった（複数意見）〇10 月桜・井戸（複数意見）〇木道（複数意見）

〇振り返った時の景色。柿の木と後ろの里やま　〇久保城跡がおもしろい

〇リンドウ、ヤマラッキョウなど野草がうれしい。下草刈りの効果
〇下草刈りの効果で美しい。特に谷津田、里やま、そこにあるウルシ、野草が美しい
〇谷津田とウルシの景観が良い
×休憩していた時にトイレの存在が気になった
×自然のヤブツバキなどがあれば良いと思うが、植林のものを見たいとは思わない
×せっかくの自然の中であの桜の樹木はないほうがいい。→ただし 11 月桜があるというのはすばらしいのでどこか一箇所にたくさん植えてはどうか。
×外来種であるアカシアを植栽することはこのましくないと思う。（複数意見）→地域活性化のため多くの人を集める目的で花にあまりこだわるのは問題
×アカシアをここに植えるのはやめて欲しい。棚田にもっと彼岸花を増やしてはどうか
×緑を大切に。記念植樹のために木を切っている(複数意見)。力を感じない
×アカシアの植木は絶対やめてほしい→えぼし塚とベンチ付近の 2 箇所


丸山町の良い所と悪い所をマップに落とした（雑木林コース）

◆その他
〇全体的によく手入れされている
〇総合学習の場に活用
〇×全体的に樹木の名がほしい（多くの人に来てもらうため。学習の場を提供するため）
×外来種を持ち込むのは感心できない
×水辺がもっと見られれば

◆提言
よかったところ
・景観がすばらしい（山、谷津田、堰、海）
・地域の子ども達への環境教育に最適
・秋の野草に感激（リンドウ、ヤマラッキョウ、ノギク等）
・地元の方々の熱意、思いに感動
・史跡が豊富。認識を新たにした
よくなかったところ
・外来種の植栽は慎重に
・今の里やまを大切にする
・トイレの場所など一工夫を
・記念樹は素直に言っていい感じを持たなかった
・人工の植栽は公園で見慣れている。わざわざ見に来たいとは思わない
→地元の人が楽しむためにはいいが、観光客を呼ぶにはよくない

このイベントを通して明らかになったことは、まず役所等でも広報したにもかかわらず地元の人の参加者が少なかったことである。地域の自然や歴史に関心を持っている人が少ないのと丸山町の良さを忘れてしまっている地元の人が多いことがうかがえる。地元の人と町外の人との意見の違いを分かち合い、丸山町の良さをお互い再確認するには今回のことをもっと多くの人に伝え、今度も継続して交流を持っていく必要がある。その仕掛け人（中心となって活動する人）を今回参加した人たちが協力して行っていくのが最良の方法であろう。

今回の町歩きでは、丸山町の良いところとよくないところをみて歩いた。その中で多くの人が良いと感じたところは自然のものや昔からあるもの、よくないところは現在のものや最近作られたものである。

この町歩きで地元の人が知らなかったり見えなくなってしまった丸山町の大切なものに気がついて欲しいと思った。今回地元からの参加者や意見を聞く機会があまり多くはなかったが、それでも地元の人の意見を聞くことにより、このイベントに参加した人は丸山町に対して想いが強くなり、何とかしたいと考えている人ばかりであった。

このイベントでの大きな成果は、町外から来たほとんどの人が「また丸山町に来たい」と言ってくれたことである。

このイベントの開催のプロセスは、さまざまな谷津田を中心とした町づくり、地元との価値再確認の方法として応用できると思う。

千葉にコウノトリが飛来！

ちば・谷津田フォーラム代表（千葉県立中央博物館生態・環境研究部長）中村　俊彦

トキのチャリティーコンサートシンポ（2004 年 12 月 11 日）が終わってほっとしすぎたせいか、昨年の暮れ、私はギックリ腰になってしまい自宅でじっとする毎日であった。そんなときに「千葉にコウノトリが飛来した！」という知人からのニュースが飛び込んできた。その後、12 月 27 日付けの新聞では、我孫子北新田で撮影されたコウノトリの写真が掲載されている。

コウノトリはユーラシアから日本にかけて生息する国の特別天然記念物で、かつて昭和初期までは日本各地にいた鳥である。トキと同じように水田や湿地で小動物を餌とし、日本でもかつては樹木の梢やときには電柱で巣をつくり繁殖していた里やまの鳥である。1986 年日本のコウノトリは一度絶滅した。その後 1985 年にロシアから受贈された６羽の幼鳥が順調に繁殖し、現在では、兵庫県立コウノトリの郷公園はじめ飼育下のコウノトリは 100 羽を越えている。

我孫子市に飛来したコウノトリ（2005 年 3 月 7 日），撮影：唐沢孝一氏

千葉県の自然誌本編６「千葉県の動物１」によると、コウノトリはかつて県内でも生息していたと考えられ、鴻の台（市川市国府台），鴻ケ巣（館山市），こうのす台（流山市），鴻ノ森（館山市）などの地名が残されている。また最近では、1883 年と 1884 年の冬に手賀沼，1962 年に御宿町，1982 年の冬には銚子市での記録があるという。

その後、実はもう一羽やはり昨年の 12 月に県内のある谷津田に飛来していたことがわかった。これは 3 月までいた。私もこの谷津田のコウノトリを 3 月 15 日に確認することができた。ある鳥類学の専門家からすると、餌の少ない冬期に一羽といえども大きなコウノトリがこのように狭いところに生息しているのは驚嘆に値するとのことであった。しかし 4 月 1 日にはこのコウノトリは確認できなかったとのことであった。大陸へ帰って行った可能性が高い。

この冬のコウノトリの飛来・生息は、千葉の谷津田の極めて高い生産性を示すものである。このコウノトリ、また次の冬も飛来し、できることなら、是非、つがいで来てくれることを期待したい。そしてその次には、トキの飛来も夢物語ではなくなっているのである。

千葉の谷津田に生息していたコウノトリ（2005 年 2 月），撮影：泉宏子氏

千葉市緑区下大和田で確認された開花植物

ちば・谷津田フォーラム　網代　春男

1.調査地と調査方法

本会では 2000 年 4 月から 2003 年 3 月までの 3 年間、毎月第一日曜日に開花植物を観察記録した。

谷津両斜面林上の台地は畑地，山林が広がり、水の涵養が十分行われている。そのため、千葉市内の谷津田としては水環境に優れ、谷津を流れる 3 つの水路のうち 2 つは土水路で歌にある春の小川そのままの風情である。放棄田が多いが耕作されている水田は湿田で冬でも水が絶えることはない。

動植物も豊かで、食物連鎖の輪が完結型で残っている自然度の高い地域である。

本谷津田は千葉市の東端に位置し、緑区下大和田に所在している。谷津北側は若葉区に接しているが、便宜、下大和田谷津と称している。東側は八街市、東金市に近い。この谷津は鹿島川上流部に注ぐおよそ 3Km におよぶものである。

観察対象地は鹿島川への注ぎ口から約 1 Km 上流部の 500m くらいの区間で、ちば環境情報センターで借用している休耕田、耕作放棄田を中心に一巡約 2 時間の定例コースを定めその範囲内を観察、調査した。（地図参照）

谷津の両サイドの斜面林は内部には立ち入らず、斜面林下から望み確認できたものにとどめている。

図．調査地概況と調査コース（太線：調査コース）

2.調査員

綾富美子，芳我めぐみ，本間　征，田井中信子，網代春男

3.調査結果

調査結果を次の表にまとめた。まとめは本間征がおこなった。

表・下大和田で確認された月別開花植物

	科名及び種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
	《草　本》													
	単子葉類													
	ﾗﾝ科													
1	ﾈｼﾞﾊﾞﾅ							*						'00, '02,
	ｱﾔﾒ科													
2	ｷｼｮｳﾌﾞ					*	*							'00, '01, '02,
3	ﾆﾜｾﾞｷｼｮｳ					*								'00,
	ﾔﾏﾉｲﾓ科													
4	ﾔﾏﾉｲﾓ								*	*				'00, '01, '02,
5	ｵﾆﾄﾞｺﾛ(ﾄｺﾛ)								*	*				'00, '01, '02,
6	ｷｸﾊﾞﾄﾞｺﾛ(ﾓﾐｼﾞﾄﾞｺﾛ)					*	*							'02,
	ﾕﾘ科													
7	ﾂﾙﾎﾞ									*				'00, '02,
8	ﾔﾏﾕﾘ													花未確認
9	ﾅﾙｺﾕﾘ						*							'02,
10	ｼｵﾃﾞ										果実			花未確認 '02,
	ｲｸﾞｻ科													
11	ｲ					*	*	*	*					'00, '01, '02,
12	ｸｻｲ						*							'01, '02,
13	ｺｳｶﾞｲｾﾞｷｼｮｳ					*		*						'00, '01, '02,
14	ｽｽﾞﾒﾉﾔﾘ				*									'02,
	ﾐｽﾞｱｵｲ科													
15	ｺﾅｷﾞ									*	*	*		'00, '01, '02,
	ﾎｼｸｻ科													
16	ﾋﾛﾊｲﾇﾉﾋｹﾞ										*			'01, '02,
	ﾂﾕｸｻ科													
17	ﾂﾕｸｻ						*	*	*	*	*	*		白花種あり '00, '01, '02,
18	ｲﾎﾞｸｻ										*			'00, '01, '02,
	ｳｷｸｻ科													
19	ｱｵｳｷｸｻ											葉		花未確認 '02,
	ｻﾄｲﾓ科													
20	ｳﾗﾔﾏﾂﾂﾞｳ				*	*								'00, '02,
21	ﾏﾑｼｸﾞｻ					*								'02,
22	ｶﾗｽﾌﾞｼｬｸ					*								'02,
23	ｼｮｳﾌﾞ				*	*								'01, '02,
	ﾄﾁｶｶﾞﾐ科													
24	ﾄﾁｶｶﾞﾐ									*	*			'00, '01,
	ｵﾓﾀﾞｶ科													
25	ｵﾓﾀﾞｶ							*	*	*	*			'00, '01, '02,
	ｶﾞﾏ科													
26	ｶﾞﾏ						果実							花未確認 '02,
27	ｺｶﾞﾏ								*					'02,
28	ﾋﾒｶﾞﾏ								*					'02,
	ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ科													
29	ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ								*	*				'01,
30	ｺｺﾞﾒｶﾞﾔﾂﾘ								*	*				'00, '01,
31	ﾀﾏｶﾞﾔﾂﾘ								*	*	*			'00, '01,
32	ﾋﾒｸｸﾞ									*	*			'00, '01, '02,
33	ｶﾜﾗｽｶﾞﾅ									*	*			'00, '01, '02,
34	ｱｾﾞｶﾞﾔﾂﾘ										*			'02,
35	ﾏﾂｶｻｽｽｷ								*		*			'02,
36	ｲﾇﾎﾀﾙｲ							*						'02,
37	ｻﾝｶｸｲ										*			'00,
38	ﾃﾝﾂｷ								*	*				'00, '01,
39	ﾔﾏｲ									*				'01,
40	ﾋﾒﾋﾗﾃﾝﾂｷ										*			'02,
41	ﾋﾃﾞﾘｺ									*				'00,
42	ﾊﾘｲ							*						'00,
43	ﾏﾂﾊﾞｲ									*				'02,
44	ﾏﾂｸｻ					*								'02,
45	ｺﾞｳﾂﾞ					*								'02,
46	ｶｻｽｹﾞ					*								'01, '02,
	ｲﾈ科													
47	ｶﾆﾂﾘｸﾞｻ					*	*	*						'00, '01, '02,
48	ｶﾓｼﾞｸﾞｻ						*							'01, '02,
49	ﾈｽﾞﾐﾎﾝﾑｷﾞ						*	*						'01,
50	ｲﾇﾑｷﾞ				*	*	*							'00, '01, '02,
51	ﾔｸﾅｶﾞｲﾇﾑｷﾞ					*								'00, '01,
52	ｵﾆｳｼﾉｹｸﾞｻ					*	*							'00, '01, '02,
53	ﾄﾎﾞｼｶﾞﾗ					*								'01,
54	ﾅｷﾞﾅｶﾞﾔ						*							'01,
55	ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗ			*	*	*	*	*						'00, '01, '02, '03,
56	ﾐｿﾞｲﾁｺﾞﾂﾅｷﾞ					*	*							'01,
57	ﾄﾞｼｮｳﾂﾅｷﾞ						*							'01, '02,
58	ｶﾓｶﾞﾔ					*	*							'00, '01, '02,
59	ﾆﾜﾎｺﾘ									*				'02,
60	ｶｾﾞｸｻ										*			'02,
61	ｱｼ(ﾖｼ)									*	*			'01, '02,
62	ﾁｺﾞｻﾞｻ							*	*	*				'00, '02,
63	ｵﾋｼﾊﾞ									*	*			'00, '01, '02,
64	ｸｻｺｼ						*							'00, '01,
65	ｻﾔﾇｶｸﾞｻ										*			'01,
66	ﾏｺﾓ								*	*	*			'00, '01, '02,
67	ﾉｶﾞﾘﾔｽ										果実			花未確認 '02,
68	ｶｽﾞﾉｺｸﾞｻ						*							'02,
69	ﾇｶﾎﾞ						*							'01,
70	ﾋｴｶﾞｴﾘ					*	*							'01, '02,
71	ﾈｽﾞﾐﾉｵ										*			'00, '02,
72	ｽｽﾞﾒﾉﾃｯﾎﾟｳ				*	*	*	*				*	*	'00, '01, '02,
73	ﾄﾀﾞｼﾊﾞ										*			'01, '02,
74	ﾁｶﾗｼﾊﾞ									*	*			'01, '02,
75	ｴﾉｺﾛｸﾞｻ								*	*				'01, '02,
76	ｷｼｴﾉｺﾛ									*	*			'00, '01, '02,
77	ｱｷﾉｴﾉｺﾛｸﾞｻ							*	*	*	*	*		'01, '02,
78	ｵｵｴﾉｺﾛｸﾞｻ							*		*				'00, '01, '02,
79	ﾊｲﾇﾒﾘ										*			'02,
80	ﾇﾒﾘｸﾞｻ									*	*			'01,
81	ﾇｶｷﾋﾞ									*	*			'01, '02,
82	ｽｽﾞﾒﾉﾋｴ								*	*	*			'00, '01,
83	ｼﾏｽｽﾞﾒﾉﾋｴ						*	*	*	*	*	*		'00, '01, '02,

	科名及び種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
84	ﾒﾋｼﾊﾞ								*	*	*	*		'00, '01, '02,
85	ｱｷﾒﾋｼﾊﾞ										*			'01,
86	ｲﾇﾋﾞｴ								*	*	*			'02,
87	ﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ									*	*	*		'00, '01, '02,
88	ｹﾁﾁﾞﾐｻﾞｻ										*	*		'00, '01,
89	ﾁｶﾞﾔ					*	*	*						'00, '01,
90	ﾌｼｹﾞﾁｶﾞﾔ						*							'02,
91	ｵｷﾞ										*			'01,
92	ｽｽｷ									*	*	*		'00, '01, '02,
93	ｱｼﾎﾞﾂ										*			'01, '02,
94	ｺﾌﾞﾅｸﾞｻ									*	*			'01, '02,
95	ｼﾞｭｽﾞﾀﾏ								*	*	*	*		'00, '01, '02,
	双子葉離弁花類													
	ｾﾘ科													
96	ﾉﾀﾞｹ									*	*			'01, '02,
97	ｾﾘ								*	*	*			'01, '02,
98	ﾐﾂﾊﾞ							*						'01,
99	ｵﾔﾌﾞｼﾞﾗﾐ					*								'00, '01, '02,
100	ｶﾉﾂﾒｿｳ								*	*				'01, '02,
101	ｵｵﾎﾄﾄﾞﾒ						*							'02,
	ｱｶﾊﾞﾅ科													
102	ﾁｮｳｼﾞﾀﾃﾞ								*	*				'01, '02,
103	ﾋﾚﾀﾞﾎﾟｳ(ｱﾒﾘｶﾐｽﾞｷﾝﾊﾞｲ)									*				'00,
104	ｱﾚﾁﾏﾂﾖｲｸﾞｻ								*	*				'00, '01, '02,
105	ｺﾏﾂﾖｲｸﾞｻ					*	*	*	*					'00, '01,
	ｽﾐﾚ科													
106	ﾀﾁﾂﾎﾞｽﾐﾚ				*									'00, '01, '02,
107	ﾂﾎﾞｽﾐﾚ				*	*								'00, '01, '02,
	ﾐｿﾞﾊｺﾍﾞ科													
108	ﾐｿﾞﾊｺﾍﾞ										*			'01,
	ｵﾄｷﾞﾘｿｳ科													
109	ｺｹｵﾄｷﾞﾘ							*	*	*	*			'00, '01, '02,
	ﾄｳﾀﾞｲｸﾞｻ科													
110	ﾀｶﾄｳﾀﾞｲ							*	*	*				'00, '01, '02,
111	ｺﾆｼｷｿｳ								*	*				'01, '02,
112	ｴﾉｷｸﾞｻ									*	*			'02,
	ﾌﾞﾄﾞｳ科													
113	ﾔﾌﾞｶﾞﾗﾝ								*	*				'00, '01, '02,
	ｱﾜｺﾞｹ科													
114	ﾐｽﾞﾊｺﾍﾞ										*			'01,
	ﾏﾒ科													
115	ｹﾝｹﾞ(ﾚﾝｹﾞｿｳ)					*	*							'01, '02,
116	ｸﾗﾗ							*						'00,
117	ｼﾛﾂﾒｸｻ				*	*	*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02,
118	ﾀﾁｵﾗｼﾀﾞｹﾝｹﾞ							*						'00,
119	ｺﾒﾂﾌﾞﾂﾒｸｻ					*	*							'00, '01, '02,
120	ｳﾏｺﾞﾔｼ					*								'00,
121	ﾔﾊｽﾞｿｳ									*				'01,
122	ﾌｼﾞｶﾝｿﾞｳ									*				'00,
123	ﾇｽﾋﾞﾄﾊｷﾞ									*				'00, '01, '02,
124	ｶﾗｽﾉｴﾝﾄﾞｳ				*	*								'00, '01, '02,
125	ﾅﾝﾃﾝﾊｷﾞ(ﾌﾀﾊﾞﾊｷﾞ)										*			'01,
126	ﾄｷﾘﾏﾒ								*					'01,
127	ﾉｻｻｸﾞ(ｷﾂﾈｻｻｸﾞ)									*				'01,
128	ﾉｱｽﾞｷ(ﾋﾒｸｽﾞ)									*				'00,
129	ﾔﾌﾞﾏﾒ										*			'00, '01, '02,
130	ｸｽﾞ									*				'00, '01, '02,
131	ﾂﾙﾏﾒ									*				'00, '02,
132	ｴﾋﾞｽｸﾞｻ									*				'00,
	ﾌｳﾛｿｳ科													
133	ｹﾝﾉｼｮｳｺ								*	*	*	*		'00, '01, '02,
134	ｱﾒﾘｶﾌｳﾛ					*								'01,
	ｶﾀﾊﾐ科													
135	ｶﾀﾊﾐ				*	*	*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02,
136	ｳｽｱｶｶﾀﾊﾐ							*						'02,
137	ｵｯﾀﾁｶﾀﾊﾐ					*	*	*	*	*	*			'01, '02,
	ﾊﾗ科													
138	ｺﾊﾞﾅｷﾞﾑｼﾛ						*							'02,
139	ﾍﾋﾞｲﾁｺﾞ			*	*	*	*							'00, '01, '02,
	ﾍﾞﾝｹｲｿｳ科													
140	ｺﾓﾁﾏﾝﾈﾝｸﾞｻ					*	*	*						'00, '01, '02,
141	ﾂﾙﾏﾝﾈﾝｸﾞｻ						*							'00,
142	ﾀｺﾉｱｼ								*	*				'00, '01, '02,
	ｱﾌﾞﾗﾅ科													
143	ｽｶｼﾀｺﾞﾎﾟｳ					*	*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02,
144	ｲﾇｶﾞﾗｼ					*	*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02,
145	ｷﾚﾊｲﾇｶﾞﾗｼ							*						'01,
146	ﾅｽﾞﾅ	*	*	*	*	*	*					*	*	'00, '01, '02, '03,
147	ﾏﾒｸﾞﾝﾊﾞｲﾅｽﾞﾅ					*	*	*	*			*		'01, '02,
148	ｵﾗｼﾀﾞｶﾞﾗﾝ(ｸﾚﾚﾝ)						*	*						'02,
149	ﾀﾈﾂｹﾊﾞﾅ	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02, '03,
150	ｼｮｶｯｻｲ(ｵｵｱﾗｾｲﾄｳ)				*									'00,
	ｹｼ科													
151	ｸｻｿｵｳ				*	*	*	*	*	*				'00, '01, '02,
152	ﾅｶﾞﾐﾋﾅｹﾞｼ				*	*	*							'00, '01, '02,
153	ﾀﾅｰﾆｸﾞｻ								*					'02,
154	ﾑﾗｻｷｹﾏﾝ				*	*	*							'01, '02,
	ｷﾝﾎﾟｳｹﾞ科													
155	ﾂｸﾊﾞﾄﾘｶﾌﾞﾄ											*		'01, '02,
156	ｷﾂﾈﾉﾎﾞﾀﾝ			*	*	*	*	*						'00, '01, '02,
157	ｹｷﾂﾈﾉﾎﾞﾀﾝ				*	*	*	*	*					'00, '01, '02,
158	ﾀｶﾞﾗｼ				*	*	*	*						'01, '02,
159	ｻﾗｼﾅｼｮｳﾏ											*		'01,
160	ｲﾇｼｮｳﾏ									*	*			'00, '01, '02,
161	ｱｷｶﾗﾏﾂ								*	*	*			'00, '01, '02,
162	ｾﾝﾆﾝｿｳ								*	*				'01, '02,
	ﾅﾃﾞｼｺ科													
163	ﾂﾒｸｻ					*	*	*	*	*				'00, '01, '02,
164	ﾐﾐﾅｸﾞｻ				*	*	*	*						'00, '01, '02,
165	ｵﾗﾝﾀﾞﾐﾐﾅｸﾞｻ		*		*	*	*							'00, '01, '02,

数字は確認された年。ただし'00は4月～12月、'03年は1月～3月。

	科名及び種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
166	ﾉﾐﾉﾂｿﾞﾘ				*									'01,
167	ﾐﾄﾞﾘﾊｺﾍﾞ				*	*	*	*						'00, '01,
168	ｺﾊｺﾍﾞ			*	*	*		*				*		'00, '01, '02,
169	ﾉﾐﾉﾌｽﾏ	*		*	*	*	*	*			*	*	*	'00, '01, '02,
170	ｳｼﾊｺﾍﾞ	*				*	*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02,
	ｽﾍﾞﾘﾋｭ科													
171	ｽﾍﾞﾘﾋｭ									*				'00, '01,
	ﾂﾙﾅ科													
172	ｻﾞｸﾛﾛｳ								*	*				'01, '02,
	ﾔﾏｺﾞﾎﾞｳ科													
173	ﾖｳｼｭﾔﾏｺﾞﾎﾞｳ							*	*	*	*			'00, '01, '02,
	ﾋｭ科													
174	ｲﾇﾋﾞｭ								*					'01,
175	ﾋﾅﾀｲﾉｺｽﾞﾁ									*	*	*		'00, '01, '02,
176	ﾔﾅｷﾞｲﾉｺｽﾞﾁ										*			'02,
	ｱｶｻﾞ科													
177	ｼﾛｻﾞ									*				'00,
	ｳﾏﾉｽｽﾞｸｻ科													
178	ｶﾝｱｵｲ											*		'02,
	ﾀﾃﾞ科													
179	ｽｲﾊﾞ				*	*								'01, '02,
180	ｷﾞｼｷﾞｼ					果実								花未確認 '02,
181	ﾅｶﾞﾊﾞｷﾞﾝｷﾞｼ							*						'01,
182	ｱﾚﾁｷﾞｼｷﾞｼ						*	*						'01, '02,
183	ﾐｽﾞﾋｷ										*			'01, '02,
184	ﾐｿﾞｿﾊﾞ									*	*	*		'00, '01, '02,
185	ｱｷﾉｳﾅｷﾞｯｶﾐ										*			'01,
186	ﾔﾉﾈｸﾞｻ									*	*			'01, '02,
187	ｵｵｲﾇﾀﾃﾞ									*	*			'00, '01,
188	ｲﾇﾀﾃﾞ							*	*	*	*	*		'00, '01, '02,
189	ﾎﾝﾄｳﾀﾃﾞ									*				'00,
190	ﾔﾅｷﾞﾀﾃﾞ(ﾏﾀﾃﾞ･ﾎﾝﾀﾃﾞ)										*	*		'00, '01, '02,
	ｸﾜ科													
191	ｸﾜｸｻ										*			'01,
192	ｶﾅﾑｸﾞﾗ									*	*	*		'00, '01, '02,
	ｲﾗｸｻ科													
193	ｶﾗﾑｼ									*				'02,
194	ﾐｽﾞ										*			'02,
	ﾄﾞｸﾀﾞﾐ科													
195	ﾄﾞｸﾀﾞﾐ						*	*						'00, '01, '02,
	双子葉合弁花類													
	ｷｸ科													
196	ﾖﾓｷﾞ									*	*			'00, '01, '02,
197	ﾄｷﾝｿｳ										*			'02,
198	ﾕｳｶﾞｷﾞｸ							*	*	*				'01, '02,
199	ｶﾝﾄｳﾖﾒﾅ									*	*	*		'00, '01, '02,
200	ﾉｺﾝｷﾞｸ										*	*		'01, '02,
201	ｼﾛﾖﾒﾅ(ﾔﾏｼﾛｷﾞｸ)										*	*	*	'00, '01, '02,
202	ｼﾗﾔﾏｷﾞｸ									*	*			'00, '02,
203	ﾋﾒｼﾞｮｵﾝ						*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02,
204	ﾊﾙｼﾞｵﾝ				*	*	*		*		*	*	*	'00, '01, '02,
205	ﾋﾒﾑｶｼﾖﾓｷﾞ								*	*	*	*		'00, '01, '02,
206	ｵｵｱﾚﾁﾉｷﾞｸ									*	*	*	*	'00, '01, '02,
207	ｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳ	*					*				*	*	*	'00, '01, '02,
208	ﾊﾊｺｸﾞｻ			*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02,
209	ﾁﾁｺｸﾞｻ				*									'01,
210	ﾁﾁｺｸﾞｻﾓﾄﾞｷ	*		*	*	*	*		*	*		*	*	'01, '02,
211	ｳﾗｼﾞﾛﾁﾁｺｸﾞｻ						*	*	*					'01,
212	ﾔﾌﾞﾀﾊﾞｺ											*		'00,
213	ﾉﾎﾞﾛｷﾞｸ			*	*									'01, '02,
214	ﾀﾞﾝﾄﾞﾎﾞﾛｷﾞｸ									*	*			'01,
215	ﾒﾅﾓﾐ										*			'02,
216	ｺﾒﾅﾓﾐ										*	*		'00, '01, '02,
217	ﾊｷﾀﾞﾒｷﾞｸ							*	*		*	*		'00, '01, '02,
218	ﾀｶｻﾌﾞﾛｳ								*	*	*	*		'00, '01, '02,
219	ｺｾﾝﾀﾞﾝｸﾞｻ										*	*	*	'00, '01, '02,
220	ｱﾒﾘｶｾﾝﾀﾞﾝｸﾞｻ									*	*	*		'00, '01, '02,
221	ｱｲﾉｺｾﾝﾀﾞﾝｸﾞｻ											*	*	'02,
222	ﾀｳｺｷﾞ										*	*		'00, '01, '02,
223	ﾋｺﾄﾞﾘﾊﾞﾅ										*			'00,
224	ｵｵｵﾅﾓﾐ										*			'02,
225	ﾌﾞﾀｸｻ									*				'00,
226	ﾉｱｻﾞﾐ					*								'02,
227	ﾉﾊﾗｱｻﾞﾐ												*	'00,
228	ﾀｲｱｻﾞﾐ(ﾄﾈｱｻﾞﾐ)									*	*	*		'00, '01, '02,
229	ｷﾂﾈｱｻﾞﾐ					*	*							'00, '01, '02,
230	ｶﾝﾄｳﾀﾝﾎﾞﾎﾞ				*									'01, '02,
231	ｾｲﾖｳﾀﾝﾎﾞﾎﾞ	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02, '03,
232	ｱｶﾐﾀﾝﾎﾞﾎﾞ					*								'00,
233	ｺｳｿﾞﾘﾅ							*	*					'01,
234	ｼﾞｼﾊﾞﾘ					*				*		*		'00,
235	ｵｵｼﾞｼﾊﾞﾘ				*	*	*			*	*	*	*	'00, '01, '02,
236	ﾆｶﾞﾅ						*							'01,
237	ﾔﾌﾞﾀﾋﾞﾗｺ				*	*		*	*					'01, '02,
238	ｵﾆﾀﾋﾞﾗｺ				*	*	*	*	*			*		'00, '01, '02,
239	ﾉｹﾞｼ			*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02,
240	ｵﾆﾉｹﾞｼ				*	*	*	*	*	*	*	*	*	'00, '01, '02,
241	ｱｷﾉﾉｹﾞｼ										*	*		'00, '01, '02,
	ｷｷｮｳ科													
242	ﾎﾀﾙﾌﾞｸﾛ						*	*						'00, '01, '02,
243	ﾐｿﾞｶｸｼ(ｱｾﾞﾑｼﾛ)							*	*	*	*			'01, '02,
	ｳﾘ科													
244	ｽｽﾞﾒｳﾘ								*	*	*			'00, '01, '02,
	ｵﾐﾅｴｼ科													
245	ﾉｼﾞｼｬ						*							'01,
	ｱｶﾈ科													
246	ｱｶﾈ									*	*			'00, '01,
247	ﾔｴﾑｸﾞﾗ					*								'00, '01, '02,
248	ﾖﾂﾊﾞﾑｸﾞﾗ							*		*				'00,
249	ﾎｿﾊﾞﾉﾖﾂﾊﾞﾑｸﾞﾗ						*	*	*					'01, '02,

	科名及び種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
250	ﾋﾒﾖﾂﾊﾞﾑｸﾞﾗ							*						'01,
251	ﾌﾀﾊﾞﾑｸﾞﾗ						*			*				'00, '01,
252	ﾊｼｶｸﾞｻ										*			'02,
253	ﾍｸｿｶｽﾞﾗ								*	*				'00, '01, '02,
	ｵｵﾊﾞｺ科													
254	ｵｵﾊﾞｺ					*	*	*			*			'00, '01, '02,
	ｷﾂﾈﾉﾏｺﾞ科													
255	ｷﾂﾈﾉﾏｺﾞ								*	*	*	*	*	'00, '01, '02,
	ﾊｴﾄﾞｸｿｳ科													
256	ﾊｴﾄﾞｸｿｳ								*	*				'00, '02,
257	ﾅｶﾊﾞﾊｴﾄﾞｸｿｳ							*						'02,
	ｺﾞﾏﾉﾊｸﾞｻ科													
258	ﾄｷﾜﾊｾﾞ					*	*	*	*		*	*	*	'00, '01, '02,
259	ｱｾﾞﾄｳｶﾞﾗﾝ											*		'00,
260	ｳﾘｸｻ									*	*	*		'00,
261	ｱｾﾞﾅ							*	*	*	*			'01, '02,
262	ｱﾒﾘｶｱｾﾞﾅ								*	*		*		'00, '01,
263	ｼﾝｿｳｻ										*	*		'01,
264	ｷｸﾓ									*	*	*		'00, '01, '02,
265	ｵｵｲｴﾉﾌｸﾞﾘ	*	*	*	*	*	*						*	'00, '01, '02, '03,
266	ｲｴﾉﾌｸﾞﾘ					*								'01,
267	ﾀﾁｲﾇﾉﾌｸﾞﾘ				*	*	*							'00, '01, '02,
268	ﾑｼｸｻ					*								'00,
269	ｶﾜｼﾞｼｬ							*						'02,
	ﾅｽ科													
270	ﾊﾀﾞｶﾎｵｽﾞｷ													花未確認 '00,
271	ｱﾒﾘｶｲｽﾎｵｽﾞｷ					*					*	*		'00, '01, '02,
	ｼｿﾞ科													
272	ﾋﾒｵﾄﾞﾘｺﾝｳ	*	*	*	*	*								'00, '01, '02, '03,
273	ﾎﾄｹﾅｻﾞ		*	*	*	*								'00, '01, '02, '03,
274	ｶｷﾄﾞｵｼ					*								'01, '02,
275	ﾊｯｶ									*	*	*		'00, '01, '02,
276	ﾄｳﾊﾞﾅ					*	*	*	*	*	*	*		'00, '01, '02,
277	ﾋﾒｼﾞｿ										*	*		'00, '01, '02,
278	ｼﾛﾈ									*	*		*	'00, '02,
279	ｷﾗﾝｿｳ				*									'02,
280	ｷﾊﾞﾅｱｷｷﾞﾘ										*			'00, '01, '02,
281	ｱｷﾉﾀﾑﾗｿｳ								*	*	*			'00, '01, '02,
282	ﾔﾏﾊｯｶ									*	*			'00, '01, '02,
	ﾑﾗｻｷ科													
283	ｷｭｳﾘｸﾞｻ	*		*	*	*	*							'00, '01, '02,
	ﾋﾙｶﾞｵ科													
284	ｺﾋﾙｶﾞｵ							*						'01,
	ｶﾞｶﾞｲﾓ科													
285	ｶﾞｶﾞｲﾓ								*	*				'01, '02,
286	ｵｵｶﾓﾒｽﾞﾙ													花未確認 '00,
	ﾘﾝﾄﾞｳ科													
287	ﾌﾃﾞﾘﾝﾄﾞｳ				*									'00,
	ｻｸﾗｿｳ科													
288	ｺﾅｽﾋﾞ					*	*	*						'01, '02,
289	ﾇﾏﾄﾗﾉｵ									*				'00,
	《木　本》													
	単子葉類													
	ｲﾈ科													
290	ｱｽﾞﾏﾈｻﾞｻ													花はない
291	ﾏﾀﾞｹ													花はない
	ﾏｯﾊ科													
292	ﾏﾂ													
	ﾊﾅﾔｽﾘ科													
293	ｵｵﾊﾅﾜｻﾋﾞ									胞子			胞子	'01,
	ﾄｸｻ科													
294	ｽｷﾞﾅ				胞子									'00, '02,
	双子葉離弁花類													
	ｳｺｷﾞ科													
295	ﾀﾗﾉｷ								*					'02,
296	ﾔﾂﾃﾞ												*	'02,
	ﾌﾞﾄﾞｳ科													
297	ｴﾋﾞｽﾞﾙ								*					'01,
298	ﾉﾌﾞﾄﾞｳ							*	*	*				'01, '02,
	ﾐﾂﾊﾞｳﾂｷﾞ科													
299	ｺﾝｽﾞｲ						果実							'00,
	ﾆｼｷｷﾞ科													
300	ﾏﾕﾐ					*	果実							'00は果実 '00, '02,
	ﾆｶﾞｷ科													
301	ﾆｶﾞｷ					*								'02,
	ﾐｶﾝ科													
302	ｻﾝｼｮｳ						果実							'00,
303	ｱｶﾒｶﾞｼﾜ						*							'02,
	ﾏﾒ科													
304	ﾉﾀﾞﾌｼﾞ					*								'00, '02,
305	ﾊﾘｴﾝｼﾞｭ(ﾆｾｱｶｼｱ)					*								'00, '02,
	ﾊﾞﾗ科													
306	ﾔﾏｻﾞｸﾗ				*									'02,
307	ｵｵｼﾏｻﾞｸﾗ				*									'02,
308	ｸｻﾎﾞｹ				*									'02,
309	ﾉｲﾊﾞﾗ					*								'00は蕾 '00, '02,
310	ｸｻｲﾁｺﾞ				*	*								'00, '02,
311	ﾅﾜｼﾛｲﾁｺﾞ						*	*						'00, '02,
312	ﾓﾐｼﾞｲﾁｺﾞ				*		果実							'00は果実 '00, '02,
	ﾕｷﾉｼﾀ科													
313	ｳﾂｷﾞ						*							'00, '02,
314	ﾋｻｶｷ				*									'00,
315	ﾂﾊﾞｷ(ﾔﾌﾞﾂﾊﾞｷ)				*									'00,
	ｱｹﾋﾞ科													
316	ﾐﾂﾊﾞｱｹﾋﾞ				*		果実							'00は果実 '00, '02,
317	ｱｹﾋﾞ				*			果実						'00は果実 '00, '02,
	ﾂｽﾞﾗﾌｼﾞ科													
318	ｱｵｽﾞﾗﾌｼﾞ(ｶﾐｴﾋﾞ)							*	*		果実			'01は果実 '01, '02,
	ﾒｷﾞ科													
319	ﾋｲﾗｷﾞﾅﾝﾃﾝ				*									'00,

数字は確認された年。ただし'00は4月～12月、'03年は1月～3月。

	科名及び種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
	ｸｽﾉｷ科													
320	ｼﾛﾀﾞﾓ											＊		'01,
	ﾓｸﾚﾝ科													
321	ｺﾌﾞｼ				＊									'00,
	ｸﾜ科													
322	ﾋﾒｺｳｿﾞ							果実						'00,
	ﾌﾞﾅ科													
323	ｺﾅﾗ				＊									'02,
324	ｸﾇｷﾞ				＊									'02,
325	ｸﾘ						＊	＊		果実				'00は蕾、果実 '00, '02,
	ﾔﾅｷﾞ科													
326	ﾔﾅｷﾞsp.				＊									'00,
	双子葉合弁花類													
	ｽｲｶｽﾞﾗ科													
327	ｽｲｶｽﾞﾗ						＊							'00, '02,
328	ﾆﾜﾄｺ				＊	果実								'00は果実 '00, '02,
	ｸﾏｳｽﾞﾗ科													
329	ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ						＊	＊						'00は蕾 '00, '02,
	ﾓｸｾｲ科													
330	ﾄｳﾈｽﾞﾐﾓﾁ							蕾						'00,
	ﾊｲﾉｷ科													
331	ｻﾜﾌﾀｷﾞ					＊								'00, '02,
332	ｴｺﾞﾉｷ						＊							'00,
	ｶｷﾉｷ科													
333	ｶｷﾉｷ					＊								'02,

数字は確認された年。ただし'00は4月～12月、'03年は1月～3月。

＜ちば・谷津田フォーラム定期観察会－下大和田谷津田観察会とゴミ拾い＆里山の手入れ＞

場　所：千葉市緑区下大和田
集　合：中野操車場または現地 10:00　（地図参照：HP：http://yatsuda.2.pro.tok2.com/）
開催日：毎月第１日曜日１０：００～１４：００（観察会は 10:00～12:00）
交　通：中野操車場へは JR 千葉駅 10 番千葉フラワーバスで 45 分（520 円），車の場合は東金有料道路を中野料金所で降りて東金街道に入り、東金に向かって 1.5 kmほどで右側にラーメンショップの看板がみえてくる。道路をはさんで反対側がバス停。駐車場あり（会員の林理氏提供）
持ち物：弁当，水筒，敷物，長靴など　　参加費：３００円（保険代，資料代）
主　催：ちば・谷津田フォーラム　　連絡先：NPO 法人ちば環境情報センター　TEL＆FAX　043-223-7807

谷津田調査票

佐倉市在住の小野由美子さんから谷津田調査票が送付されましたので、紹介いたします。なお、注目すべき動植物については、保護の関係上省いてあります。

ちば・谷津田フォーラムでは、県内の谷津田状況を把握し、データベース化していきたいと考えています。更新していく活動をしています。皆様も是非ご協力ください。なお、谷津田調査票をご希望の方は、事務局宛ご連絡ください。

佐倉市の谷津田(2004年調査)

谷津田	所在地	谷津の規模 長さ m	谷津の規模 開口部m	谷津の規模 面積ha	谷津の規模 水田%	谷津の規模 休耕%	湧水数	谷津の奥	土水路%	水路のようす 整備土水路%	コンク%	圃場整備率	農道舗装率 %	開発計画	ゴミ	地域団体
畔田	佐倉市畔田、佐倉市下志津	3300	150	31	10	90	26	草地	100			0	0	あり	粗大・産廃	さくら・人と自然をつなぐ仲間、田んぼ池の会
下志津(兼丸谷津)	佐倉市下志津	2000	20	12.7	59	41	15	開発地		20	80	88	60	あり	家庭ごみ	さくら・人と自然をつなぐ仲間
小篠塚	佐倉市小篠塚	1100	140	16.7	7	3	8	落葉樹林		90	10	98	50	なし	粗大・産廃	人づくり街づくり環境づくり
米戸	佐倉市米戸	4300	80	21	35	65	31	湿地		100		98	0	なし	粗大ゴミ	なし
直弥	佐倉市直弥	3800	100	26	90	10	19	草地		33	67	100	67	あり	ほとんどない	佐倉里山クラブ,佐倉市谷津田生態系保全区域
岩富(大流川、グラウンド側支谷津)	佐倉市岩富	5300	100	40	68	32	40	草地	20		80	90	10	なし	ほとんどない	佐倉里山クラブ
大佐倉(池下谷津)	佐倉市大佐倉	650	200	23.2	100	0	5	ゴルフ場		100		100	70	なし	ほとんどない	なし
吉見	佐倉市吉見	2800	150	23.7	58	42	18	住宅地		○	○	100	?	なし	?	なし
下勝田(上勝田沢+瓜坪新田)	佐倉市下勝田	3900	100	20	80	20	13	草地			100	99	90	なし	ほとんどない	なし
上別所(大後谷津)	佐倉市上別所	1100	60	?	70	30	?	混交樹林			100	98	20	なし	ほとんどない	佐倉市カタクリ植生保護
西御門	佐倉市西御門、千葉市	1500	70	12	33		?	草地			33	98	5	あり	家庭ごみ	西御門を愛する会
馬渡沢(四街道市成山と接する)	佐倉市馬渡、四街道市成山	1100	130	?	20	30	?	草地	80			20	20	あり	粗大ゴミ	四街道めだかの会

２００４年度ちば・谷津田フォーラム活動実績一覧

活動名	実施年月日	活動場所
第 51 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ（共催）	2004 年 4 月 4 日	千葉市緑区下大和田
里山シンポジウム打ち合わせ	2004 年 4 月 5 日	千葉県教育会館
堂本暁子千葉県知事と里山シンポジウム打ち合わせをかねた昼食会	2004 年 4 月 9 日	千葉県庁知事応接室
里山シンポジウム打ち合わせ	2004 年 4 月 14 日	千葉県教育会館
第 52 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ（共催）	2004 年 5 月 2 日	千葉市緑区下大和田
里山シンポジウム打ち合わせ	2004 年 5 月 7 日	千葉県教育会館
第 50 回幹事会	2004 年 5 月 21 日	千葉県立中央博物館
里山シンポジウム反省会	2004 年 6 月 1 日	千葉県教育会館
第 53 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ，ＮＨＫビデオ取材（共催）	2004 年 6 月 6 日	千葉市緑区下大和田
里山シンポジウム打ち合わせ	2004 年 6 月 17 日	千葉県教育会館
第 51 回幹事会	2004 年 6 月 30 日	千葉県立中央博物館
第 54 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ（共催）	2004 年 7 月 4 日	千葉市緑区下大和田
里山シンポジウム反省会	2004 年 7 月 18 日	千葉市若葉区谷当町
第 52 回幹事会	2004 年 7 月 29 日	千葉県立中央博物館
第 55 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ，谷津田展覧会（共催）	2004 年 8 月 1 日	千葉市緑区下大和田
こども環境講座打ち合わせ	2004 年 8 月 17 日	千葉市教育委員会
ちば・谷津田フォーラム会誌「里やまの自然誌」第 11 号発行	2004 年 8 月 30 日	ちば環境情報センター事務所
第 53 回幹事会	2004 年 8 月 31 日	千葉県立中央博物館
第 56 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ（共催）	2004 年 9 月 5 日	千葉市緑区下大和田
里山シンポジウム打ち合わせ	2004 年 9 月 7 日	千葉県教育会館
第 54 回幹事会	2004 年 9 月 29 日	千葉県立中央博物館
千葉県　ＮＰＯによる公募型環境学習　「こども環境講座」　企画・運営	2004 年 10 月 2～3 日	千葉市緑区下大和田，昭和の森
第 57 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ（共催）	2004 年 10 月 3 日	千葉市緑区下大和田
第 55 回幹事会	2004 年 10 月 22 日	千葉県立中央博物館
第 58 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ・東屋づくり（共催）	2004 年 11 月 7 日	千葉市緑区下大和田
第 56 回幹事会	2004 年 11 月 17 日	千葉市中央コミュニティーセンター
朱鷺絶唱打ち合わせ	2004 年 11 月 19 日	千葉市中央区高岡良樹宅
第 59 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ（共催）	2004 年 12 月 5 日	千葉市緑区下大和田
朱鷺絶唱打ち合わせ	2004 年 12 月 8 日	千葉市中央区高岡良樹宅
新潟県中越地震被災者支援「高岡良樹と千葉の里やまグループ　チャリティーコンサート朱鷺絶唱＆シンポジウム」主催	2004 年 12 月 11 日	千葉県教育会館大ホール
新潟県中越地震被災者支援義援金をＮＨＫ千葉放送局に	2004 年 12 月 24 日	ＮＨＫ千葉放送局
第 60 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ（共催）	2005 年 1 月 9 日	千葉市緑区下大和田
里山フォーラム　ＩＮ ちば　出展	2005 年 1 月 23 日	市原市市民会館
里山シンポジウム打ち合わせ	2005 年 1 月 25 日	千葉市中央コミュニティーセンター
第 61 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ（共催）	2005 年 2 月 6 日	千葉市緑区下大和田

里山シンポジウム打ち合わせ	2005 年 2 月 15 日	千葉市中央コミュニティーセンター
里山シンポジウム打ち合わせ	2005 年 2 月 28 日	千葉市中央コミュニティーセンター
第 62 回「下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い」＆里やまの手入れ－谷津田の春をみつけよう！（共催）	2005 年 3 月 6 日	千葉市緑区下大和田

谷津田ファイル

NHK 総合テレビ　2004 年 7 月 15 日

広報ようかいちば 2004 年 8 月 1 日

よかっぺいいとこ

NPOの八日市場街歩き

NPO法人ちば環境情報センター（☎043・223・7807、hello@ceic.info）のメンバーが、八日市場の街歩きを行いました。

午前中は、地元農家の人の案内付きで宮本周辺の里山（田んぼ）を、午後は本町通り商店街を歩きました。「改めてお店に入り、話を聞いたり商品を手に取ったりしてみると、京都に負けない観光気分を味わえました」と感想を述べました。

田んぼの中にいる生き物を観察

ちば・谷津田フォーラムが毎月観察会や里山整備を行っている千葉市緑区下大和田谷津田が、空撮生中継された。

さあ！NPO VOL.10　2004 年 8 月

こども環境講座

「谷津田で自然体験」

「谷津田の良さを身体で実感して、この豊かな自然を残したいという思いを、参加したお子どもたちに持ってもらえたら」と事務局の小西由希子さん。

房総半島の北部、かつては海の入りはとなっていた谷津が、現在は谷津田とよばれる水田になっています。谷津田とその周辺の豊かな自然を残したいと、「ちば・谷津田フォーラム」は活動しています。

谷津田で遊ぶ

今回の講座は10月2日、3日に千葉市緑区にある「昭和の森のユースホステル」に宿泊し、主に小山町の谷津田で自然体験プログラムを実施します。ここはすぐ近くに新興住宅地があり街並みと隣り合わせに谷津田があるところです。講座では、地元の農家の方の協力を得て、竹を切り出し、竹細工を楽しんだり、竹を使って飯を炊いたりします。子どもたちは自然の恵みの中で、トンボやカエル、メダカ、ザリガニを捕ったりして、どろんこになって遊びます。この講座の定員は30名。

ご飯を炊く入れ物を切っているところ

ちば・谷津田フォーラム

いっしょに過ごすスタッフは約25名。スタッフは、自然観察指導員の資格を持っている人、工作技術に優れた人、遊びの達人といった、それぞれに専門性を持った人たちです。自然の中で遊ぶことに慣れていない子どもたちも、スタッフのちょっとした導入があれば、自然を満喫して遊ぶことができるようになります。

今、子どもたちが自然に親しむ機会は、どんどん少なくなっています。旅行やキャンプにと遠くに出かけなくても、街並みのすぐそばにある豊かな自然を体感することできる場、それが谷津田と言えるでしょう。「ちば・谷津田フォーラム」では観察会や「ミニ谷津田」造り、草取り、稲刈りといった谷津田の保全に関わる企画を年間通して開催しています。

「環境保全の主役はあなた。自分たちが解決の主体となって自然を守りましょう。谷津田の保全のために、子どもたちの笑顔のためにも楽しくやっていきたいと思います」と小西さんは力強く話してくれました。

（取材・横堀淳子）

地域新聞 NO224　2004 年 10 月 29 日

谷津田で

こども環境講座

10月2日・3日の一泊二日で昭和の森と近くの谷津田を舞台に「こども環境講座」が開かれ、県内の小4～中学生33人が参加した。県主催で、NPOによる公募型環境学習事業として「ちば・谷津田フォーラム」が昨年につづいて2回目の受託をし、企画・運営をしたもの。

緑区下大和田の谷津田で、米作りや自然に親しむ活動を数年来続けている同フォーラムの会員らがスタッフとなり、稲刈りの終わった秋の谷津田で、身近な自然の楽しさを存分に味わってほしいと多彩なプログラムが用意された。

昭和の森集合は2日の午後。ネーチャーゲームで気分をほぐしてから小山町の谷津田探検へ繰り出した。草花で遊んだり、木の実を拾ったり、メダカやカエルや昆虫たちとふれあったりした。夜はユースホステルから千手田池へのナイトハイクで、夜道を歩いたり、懐中電灯ながら満天の星を眺めたりする体験もした。

翌朝は、自由参加による早朝ハイクにほとんど全員参加。虫かごに入れたクツワムシが一晩中鳴いて寝ぼけまなこの子もいた。朝の野鳥や植物観察を使ってアオサギやダイサギなどを観察した。

帰り出した雨で、朝食後は室内でネーチャークラフトを行うことに。まずは昼食に使う各自の箸作り。縦に割った青竹の皮を小刀で削っていって、自分の手になじんだ太さと長さの箸ができると満足そうだ。次は、蝋ない、竹筒、どんぐりトトロ、プレゼント用の箸などのコーナーに分かれて制作に熱中した。

昼時には大鍋にしゃもじでカレーライスを作る。鍋を煮り、団扇であおぎ、立ちよる度に目を赤くしつつ、竹筒で炊いた飯に箸を近づけて、「うわっ、おいしそう」と目を輝かせる。傍らには作った竹箸をピーピー吹き鳴らす子もいた。

午後からは引きつづき、谷津田探検で見つけた素材を用いたネーチャークラフトが行われた。（風切雅）

問い合わせ

☎043・253・7807

ちば・谷津田フォーラム

せんばこきで脱穀して藁を作ることから体験。

シュロウガネのお尻からキがスルスルとはいでくるね！

ちば・谷津田フォーラム企画・指導により「こども環境講座」（主催：千葉県）が、千葉市緑区昭和の森と小山町の谷津田で実施された。

千葉日報　2004 年 11 月 29 日

新潟被災者支援コンサート

千葉市在住　高岡良樹さん

来月11日 教育会館　里山考えるシンポも

新潟県中越地震の被災者を支援しようと、シンガーソングライターの高岡良樹さんと県内の里山保全グループらが十二月十一日、中央区中央の教育会館でチャリティーコンサート・シンポジウムを開く。

高岡さんは千葉市在住のミュージシャン。風土に根ざした創作や、文学・演劇などの要素を取り入れた「歌物語」と名付けた独自の音楽を手掛けてきた。一九八七年には、絶滅寸前の鳥トキをテーマに「朱鷺絶唱（ときぜっしょう）」を発表し、文化庁芸術祭賞を受賞した。

コンサートでは同曲を披露するほか、娘の南見佳世乃さんと「親子ジョイント」も。味わい深いギターの音色とともに、魅惑のステージを披露する。

自然が多く残る新潟県の被災者に思いをはせ、県内の環境保全団体のメンバーらが参加するシンポジウム「千葉の里やまと朱鷺を語る」も行われる。

午後四時十五分～同六時四十五分まで。チケットは全席自由席で二千五百円。申し込み・問い合わせは、ちば谷津田フォーラム（☎043・253・7807）、または高岡事務所（☎090・8081・3465）まで。

チャリティーコンサートを開く高岡良樹さん

新潟中越地震被災者支援コンサート＆シンポジウムが実施されることを紹介した記事

日本農業新聞 14988 号 2005 年 2 月 13 日

千葉の農高生 再生に奮闘

谷津田にトキを呼べ

あふれる命 実感

農高生が主体となって谷津田のビオ田んぼを手入れする（1月、千葉県一宮町で）

茂原農業高校農業土木クラブは、一宮町の耕作放棄地だった谷津田の再生活動を続けている。

千葉日報 2005 年 1 月 24 日

県民ぐるみで里山保全を

グループ、企業が活動報告

加藤登紀子さんと知事の対談も

市原市でフォーラム

市原市で行われた「里山フォーラム IN ちば。堂本暁子千葉県知事と歌手の加藤登紀子氏の対談などが行われた。ちば・谷津田フォーラムは展示発表で参加した。

谷津田・里山とそこに息づく自然，人，文化，歴史などをまとめた「里やま自然誌」が発行された。

日本農業新聞 2005 年 3 月 9 日

人と自然が調和 里山の姿を本に

千葉県立中央博物館の中村さん

機能、動植物の生態を紹介

自然保護や田んぼの機能を訴えた『里やま自然誌』

失われつつある里山を記録に残したい――。千葉県立中央博物館の生態・環境研究部長の中村俊彦さん（50）は、『里やま自然誌 谷津田から見た人・自然・文化のエコロジー』を執筆、出版した。里山の価値や役割を明らかにしつつ、水田と日本人、動植物の関係なども解説している。

里山とは、人里近くの森林や田んぼ、川などを指す。農学博士で千葉大学大学院客員助教授でもある中村さんは、「2000年以上にわたって培われた人と自然の調和・共存の空間」と表現する。

自身、少年時代に遊んだり、物事を学んだりした場所と振り返る。しかし、都市化などで、里山は減少してきたと指摘。「子どもたちに自然環境の大切さを伝えたい」と、10年前から全国の里山の生態系などの調査を始めた。

里山の機能を、さまざまな角度から検証する。動植物の生態と人間のかかわりや農村文化、子どもの遊び方などを10章に分けて紹介する。

特に田んぼが果たしてきた自然環境への貢献について特集。中でも千葉県の房総半島北部に多く、生態系が豊富といわれる谷津田に焦点を当てた。「生き物を増やすには浄水作用がある田んぼが最適。減農薬や冬期たん水など手間をかけた方が、結果的に人間の得になる」と提言する。

ほかに大脳生理学と自然体験の関係など、里山をめぐる話題は多岐にわたる。どのページにも写真やイラスト、統計や識者コラムなどを多くそえた。中村さんは「読みやすく、里山に興味ある人の入門書にしたい」と力を込める。

A4判変形128ページで、定価は2625円。問い合わせはマルモ出版、(03)(3498)7046。

＜事務局より＞

●ご寄付くださった方々

会誌 11 号発行以降、次の方々から合計金額 142，000 円のご寄付をいただきました。紙面を借りてご報告いたしますとともに厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

（2005．3.14 現在、50 音順・敬称略）

雨嶋克憲，荒木佳子，石毛教子，梅里之朗，江見照夫，遠藤陽子，岡崎清孝，岡田光子，小野由美子，柏木靖子，（株）カルチャーアイ，川瀬一世，木下敬三，栗山秋男，佐藤信和，里見章子，塚原良太郎，高橋在久，外川仁，富塚武邦，中村俊彦，長谷川繁子，林信子，林みね子，平井幸夫，細矢忠資，村田威夫，森岡節夫，山下慶治，横田耕明

なお上記とは別に、新潟中越地震支援コンサートに対しても多数の方からご寄付を頂きました。お名前は掲載しませんが、改めて深く御礼申し上げます。

【ご寄付のお願い】

会誌 11 号発行から、今回も 30 名もの方から多額のご寄付をいただきました。ちば・谷津田フォーラムの運営費は、会員の皆様の寄付と助成金でまかなわれています。会の運営のため、今後とも引き続きご寄付いただきたくお願い申し上げます。

郵便振り込み口座番号：００１２０－０－１８７８７４　ちば・谷津田フォーラム

【原稿のお願い】

会誌に掲載する原稿を募集しています。谷津田保全に関する活動紹介や、多くの皆さんに知ってほしいことなど、投稿してください。原稿は、フロッピーか e-mail でいただけるとありがたいです。郵送の場合は下記の事務所へ、e-mail の場合は、次のアドレスにお願いいたします。

原稿送り先（e-mail の場合）：QYK16306@nifty.com（田中）

●顧問（敬称略・50 音順）

石川　清（社会貢献活動企業推進協議会代表）
岩瀬　徹（千葉県生物学会副会長・千葉県立中央博物館友の会会長）
大沢雅彦（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）
楠岡　巖（四街道ユネスコ協会会長・四街道ライオンズクラブチャーターメンバー）
ケビン・ショート（東京情報大学教授，博物学・自然史ライター）
椎名益男（ライオンズクラブ国際協会（千葉県）環境保全委員長）
高橋在久（東京湾学会理事長）
中嶋拡子（千葉県生活協同組合連合会顧問）
根本正之（東京農業大学地域環境科学部教授）

● 組織・運営

・代　表：中村俊彦（千葉県立中央博物館）
・副代表：岩田好宏（千葉県自然保護連合副代表）、原慶太郎（東京情報大学教授）
・事務局長：川本幸立
・会　計：小西由希子
・編　集：田中正彦，小西由希子，松下優子
・幹　事：調査研究・教育普及（田中正彦，栗原裕治，小川かほる，小西由希子，網代春男，高山邦明，中村彰宏）
保全活動（大槻憲昭，中野雅藏，高山斉一郎）

ちば・谷津田フォーラム会誌「里やまの自然誌」第 12 号
発行日：2005 年 4 月 15 日
発　行：ちば・谷津田フォーラム　〒260-0013　千葉県千葉市中央区中央 3-13-17　代表　中村　俊彦
（月・水・金の 10:00～14:00 には事務所当番がおります）
TEL&FAX 043-223-7807　HP：http://yatsuda.2.pro.tok2.com/
編集責任者：田中　正彦，小西　由希子　表紙題字：倉島　貴浩　イラスト：松下　優子
郵便振り込み口座番号：００１２０－０－１８７８７４　ちば・谷津田フォーラム